

ANNUAL REPORT

2024 – 2025

No. 48



Department of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

I. 教員業績

氏名	秋山 英三	職名	教授
学位プログラム（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 兼任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：学 類 社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論
大学院 社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数： 社会工学類 4人
社会工学学位P（前期）6人
社会工学学位P（後期）2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・基盤研究 (C) 新規投資家の継続的な参入が価格形成・価格変動に与える影響（代表）
 - ・基盤研究 (C) 市場参加者の価格予測の異質性と市場の振る舞いの関係について（代表）
 - ・基盤研究 (B) 経験財消費のための情報収集行動とその支援情報提供システム
（代表者：石川竜一郎）
 - ・基盤研究 (B) 信用スコア社会に対応可能な評判管理システムの設計（代表者：岡田勇）
 - ・基盤研究 (B) ゲーム理論・意思決定理論への理性制約・準理性制約の導入とその影響
（代表者：金子守）
- ◆ 著書・論文等：

■DOI あり論文

Inaba M, Akiyama E (2025) Environmental variability promotes the evolution of cooperation among geographically dispersed groups on dynamic networks. PLOS Complex Systems 2(4): e0000038.

<https://doi.org/10.1371/journal.pcsy.0000038>

Nagura, T., & Akiyama, E. (2025). Emergence of echo chambers in social media

communication involving multiple topics. *Information, Communication & Society*, 1–22.
<https://doi.org/10.1080/1369118X.2025.2456561>

■ DOI なし論文

査読有り オープンアクセスあり

名倉卓弥, 秋山英三. (2024) ソーシャルメディア上のアジェンダ設定がエコーチェンバーの発生に与える影響について, *人工知能学会論文誌*, 39(6), AG24-A, 1-8.

査読無し オープンアクセスなし

筒井律稀, 小菅雷太郎, 秋山英三, 山本仁志, 荒牧大樹, 伊藤千輝, 栗原聡. “発話量と発話内容に基づく集団間のコミュニケーション円滑化システムの提案,” *行動変容と社会システム* Vol. 11, 5 pages, 2024.

秋山英三. (2024). 進化ゲーム理論の進化 – マルチエージェントシミュレーション, 実験室実験と, LLM の行動経済学-. *人工知能*, 39(3), 323-329.

小菅雷太郎, 若林直希, 山本仁志, 秋山英三, 栗原聡. (2024). “繰り返し囚人のジレンマゲームにおける表情センシングを活用した人の感情と行動の分析,” *行動変容と社会システム* Vol. 10, 5 pages, 2024.

◆ 学会発表等：

秋山英三, “人・AI 共生社会における協調形成,” 令和 6 年度「国際貢献学の概念構築を目指して」研究会, March 25, 2025, オンライン開催.

筒井律稀, 小菅雷太郎, 秋山英三, 山本仁志, 荒牧大樹, 伊藤千輝, 栗原聡, 発話量と発話内容に基づく集団間のコミュニケーション円滑化システムの提案, 第 21 回行動変容と社会システム研究会(SIG-BCSS)(WSSIT2025), 2025 年 2 月, ホテルラフォーレ那須.

小菅雷太郎, 秋山英三, 山本仁志, 栗原聡, 繰り返し囚人のジレンマにおける行動が表情に与える影響の分析, 第 26 回データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会, 2024 年 12 月, 慶應義塾大学日吉キャンパス.

米谷源太, 秋山英三, “懲罰行動が間接互惠の進化に与える影響について：進化シミュレ

ーションによるアプローチ,” ワークショップ: 計算社会科学と実験社会科学の結節点を探る, March 1, 2025, 関西大学千里山キャンパス.

名倉卓弥, 秋山英三, “多様なトピックのバランスの良い接触を促す「情報摂取システム」のエコーチェンバー抑制に対する有効性の検証,” ワークショップ: 計算社会科学と実験社会科学の結節点を探る, February 28, 2025, 関西大学千里山キャンパス.

吉岡大翔, 秋山英三, “投機的リスク下でのピア効果がリスク態度に与える影響,” ワークショップ: 計算社会科学と実験社会科学の結節点を探る, February 28, 2025, 関西大学千里山キャンパス.

横山昇汰, 秋山英三, “歩行者ラウンドアバウトによる整流効果 - 駅構内の混雑緩和-,” ワークショップ: 計算社会科学と実験社会科学の結節点を探る, February 28, 2025, 関西大学千里山キャンパス.

名倉卓弥, 秋山英三, “選択的接触に基づいたコミュニケーションが浸透的(Oil Spill)分極化に与える影響について,” 社会情報学会, September 15, 2024, 香川短期大学.

横山昇汰, 秋山英三, “歩行者ラウンドアバウトによる整流効果 - 階段のある駅構内の混雑緩和”, SMASH24 Summer Symposium 情報処理学会知能システム研究会(SIG-ICS), September 13, 2024, 福井市地域交流プラザ.

名倉卓弥, 秋山英三, “選択的接触に基づいたコミュニケーションが浸透的(Oil Spill)分極化に与える影響について,” August 31, 2024, 第 77 回数理学学会大会 (JAMS77), 東北大学川内キャンパス.

小菅 雷太郎, 若林 直希, 山本 仁志, 秋山 英三, 栗原 聡, 繰り返し囚人のジレンマゲームにおける表情センシングを活用した協力および非協力行動の感情分析, 第 38 回人工知能学会全国大会, 2024 年 5 月, アクトシティ浜松(静岡県浜松市).

Akiyama, E. and Ishikawa, R., “Cognitive Abilities and Experimental Green Finance,” Experimental Sustainable Finance Symposium, April 26, 2024, Nijmegen School of Management, Nijmegen.

◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 総合学域群 第二類 類長
 - 全学学群教育課程委員会（総合学域群類長として）
 - 全学学群教育課程委員会 専門導入科目等部会
 - 全学移行統括委員会 委員
 - 全学移行統括専門部会
 - 全学教学デザイン室 室員
 - 全学教育戦略会議
 - 理工学群 総合政策室 室員
 - 総合学域群 運営委員会 委員
 - 全学学群教職課程委員会 委員（総合学域群類長として）
 - 情報環境委員会ネットワーク管理委員会 委員（総合学域群類長として）
 - キャンパス情報ネットワークシステム仕様策定委員会（総合学域群類長として）
 - 教学情報システム運用委員（総合学域群類長として）
- ◆ 学位プログラム組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 学類 運営委員
 - 学位プログラム 運営委員
 - 社工人事懇談会 世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - JST さきがけ 「[社会変革基盤] 文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創」領域アドバイザー

氏名	イリチュ（佐藤）美佳	職名	教授
学位プログラム（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学, データマイニング, ソフトコンピューティング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学/統計学/卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 I/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 II/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 II/リスク・レジリエンス工学概論（分担）/リスク・レジリエンス工学グループ PBL 演習（分担）/社会工学修士特別演習 I /社会工学修士特別演習 II/社会工学修士特別研究 I/社会工学修士特別研究 II

大学院後期課程 リスク・レジリエンス工学博士 PBL 演習（分担）/ リスク・レジリエンス工学博士特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 7人

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」(代表)

- ・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「人工知能に基づく非線形高次元小標本データ解析とその社会的応用」(代表)

◆ 著書・論文等：

(1)M. Sato-Ilic, P. Ilic, Simultaneous visualization method for mixed HDLSS data and its application for education, Procedia Computer Science, Elsevier, 246, 5036-5045, 2024

(2)P. Ilic, M. Sato-Ilic, Mapping Students' Digital Eco-system Usage Patterns Using Kernel-Based Principal Component Analysis to Inform Course Design, Smart Education and e-Learning, Springer, 399, 141-150, 2024

- (3) P. Ilic, M. Sato-Ilic, AI-Enhanced Ecological Learning Spaces (chapter 2), Artificial Intelligence in Education: The Intersection of Technology and Pedagogy, Springer, 17-37, 2024
- (4) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Comparison of fuzzy clustering based SVM with reinforcement learning based SVM for autocoding of the Family Income and Expenditure Survey, Procedia Computer Science, Elsevier, 246, 1820-1829, 2024
- (5) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Difference on Evaluation Scores Considering Image Descriptions for Autocoding, Romanian Statistical Review, 1, 27-42, 2024
- (6) 佐藤美佳、ファジィクラスタリングの信頼度について、日本分類学会第43回大会予稿集、45-48, 2024
- (7) 床裕佳子、佐藤美佳、収支項目分類符号の自動付与における分類手法に関する研究、総務省統計研究研修所主催 第16回共同研究報告会、22-33, 2025

◆ 学会発表等：

招待講演：

- (1) M. Sato-Ilic, Clustering and classification for complex data, 26th International Conference on Computational Statistics, 2024
- (2) M. Sato-Ilic, P. Ilic, Simultaneous visualization method for mixed HDLSS data and its application for education, 28th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, 2024
- (3) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Comparison of fuzzy clustering based SVM with reinforcement learning based SVM for autocoding of the Family Income and Expenditure Survey, 28th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, 2024

一般研究発表：

- (4) 佐藤美佳、ファジィクラスタリングの信頼度について、日本分類学会第43回大会、2024
- (5) P. Ilic, M. Sato-Ilic, Mapping Students' Digital Eco-system Usage Patterns Using Kernel-Based Principal Component Analysis to Inform Course Design, Smart Education and e-Learning, SEEL 2024
- (6) 床裕佳子、佐藤美佳、収支項目分類符号の自動付与における分類手法に関する研究、第総務省統計研究研修所主催 16回共同研究報告会、2025

3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：

- ・全学学群教育会議委員
- ・全学学術情報メディアセンター運営委員

- ・システム情報系人事委員会委員
- ・システム情報系運営委員会委員
- ◆ 学位プログラム・学群・学類組織の業務への貢献：
 - ・社会工学類長
 - ・理工学群運営委員会委員
 - ・社会工学類教育会議議長
 - ・社会工学類運営委員会議長

4. 学外の社会貢献

- ・総務省統計研究研修所客員教授
- ・公認会計士試験出題委員（内閣府任命・金融庁）
- ・第 25 期日本学術会議連携会員
- ・文部科学省統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会委員

海外業務：

- ・国際統計協会選出会員：International Statistical Institute Elected Member
- ・国際統計協会女性委員会日本国代表：Country Representative for International Statistical Institute (ISI) Committee for Women in Statistics
- ・IEEE 計算知能学会ファジィシステム技術委員会副委員長：Vice Chair for Fuzzy Systems Technical Committee of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・Special Session Chair (特別セッション委員長), the IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI) 2024
- ・Senior Associate Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・Associate Editor of Fuzzy Sets and Systems, Elsevier, Netherlands
- ・Senior Associate Editor of Fuzzy Sets and Systems, Elsevier, Netherlands
- ・Coordinating Editor of Japanese Journal of Statistics and Data Science, Japan
- ・Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- ・Member of Editorial Board of Journal of Advances in Artificial Intelligence and Machine Learning, SciVision Publishers LLC, United States

- IEEE Senior Member
- Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- Contribution for Pillars survey on European Commission

その他:

- 日本分類学会幹事 (渉外担当)
- 日本分類学会評議員
- 日本分類学会「データ分析の理論と応用」編集委員会委員
- 日本知能情報ファジィ学会「知能と情報」編集委員会委員
- 統計関連学会連合事業委員会委員
- 統計関連学会連合 JJSD 運営委員会委員
- 種々の日本学術振興会科学研究費助成事業審査委員業務
- 学術論文の査読や国際会議座長等多数

氏名	岡田 幸彦	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任 スポーツウェルネス学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 スポーツウェルネス学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ビジネスインテリジェンス、会計情報科学、サービス工学、ソーシャル・データサイエンス、経営学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- ・学類：会計と経営/社会工学演習/経営学/マネジメント演習
- ・大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/技術経営（サービス工学学位プログラム）/サービス工学特別講義Ⅳ（サービス工学学位プログラム）/ブロックチェーン技術と地域未来創成（社会工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講1（スポーツウェルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講2（スポーツウェルネス学位プログラム）

◆ 指導学生数：

- ・社会工学類 6 人/サービス工学学位プログラム（修士）16 人/社会工学学位プログラム（修士）1 人/社会工学学位プログラム（博士）3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・筑波大学人工知能科学センター 人工知能基盤研究部門 サービス工学分野長
- ・統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター 客員教授
- ・科研費基盤 B アカウンティング・インフォマティクス（会計情報科学）の基盤研究

◆ 主な著書・論文等： 雑誌査読論文 5 件、国際会議査読論文 5 件、その他 3 件

1. Generating synthetic journal-entry data using variational autoencoder, Intelligent Systems in Accounting, Finance and Management/32(1), 2025-03
2. Data collaboration for causal inference from limited medical testing and medication data, Scientific Reports/15(1), 2025-03
3. 査読付き学術雑誌に対する投稿者・査読者の認識 査読制度に対する投稿者意識に関する質問票調査結果の分析, メルコ管理会計研究/15 (2), 91-103, 2024-12
4. Practical experiment of predicting cash flows with LSTM and double-entry bookkeeping data, Proceedings of 2024 IEEE International Conference on Big Data/pp.2360-2364, 2024-12

5. An explainable framework based on counterfactual explanations for multi-class financial distress prediction of small and medium enterprises, Proceedings of 2024 IEEE International Conference on Big Data/pp.2269-2274, 2024-12
6. Proposing a low-rank approximation method with mathematical guarantees for high-dimensional tensor data, Proceedings of 2024 IEEE International Conference on Big Data /pp.34-43, 2024-12
7. 有価証券報告書のテキストから得られる多次元感情と株式リターンの分析, 人工知能学会第二種研究会資料/2024(FIN-033)/pp.185-191, 2024-10-19
8. pSCOUTER: time-series emotion classification using contactless measured multimodal biosignals in medical diagnosis, Companion of the 2024 ACM International Joint Conference on Pervasive and Ubiquitous Computing (UbiComp '24), 2024-10-07
9. 会計情報システムとマネジメント・コントロールとの関係性に関する実証的研究の潮流と将来の発展方向, 帝京経済学研究/58(1)/pp.7-23, 2024-10
10. Noise reduced common PCA for high-dimensional, low-sample size multi-view data, Proceedings of the 6th International Conference on Statistics: Theory and Applications, 2024-8
11. 分散機密データを想定した処置効果の推定手法の開発, オペレーションズ・リサーチ, 2024-06
12. 英文学術雑誌における近年の簿記研究, 簿記研究/7(1)/pp.1-14, 2024-06
13. Collaborative causal inference on distributed data, Expert Systems with Applications/244, 2024-06

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 筑波大学高等研究院 概算要求企画メンバー／戦略推進室 委員
 - 理工学群広報委員会 委員
 - 人工知能科学センター運営委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 学類広報委員会 委員長
 - 大学院広報委員会 委員長
 - 教学マネジメント委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・子ども家庭庁 生成 AI ガイドライン作成 委員
 - ・自治体生成 AI ガイドライン作成 主査
 - ・放送大学 客員教授・主任講師「サービスサイエンス」
 - ・水戸信用金庫 理事（非常勤、報酬有、120 万円/年）

氏名	奥島 真一郎	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	国際総合学類 専任 社会工学類 兼担		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、環境・エネルギー倫理		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論 (国際総合学類開講社会工学類共通) / 国際学Ⅳ (専門導入科目) / 国際学ゼミナールⅠ (国際総合学類) / 独立論文 (国際総合学類) / 国際学ゼミナールⅡ (国際総合学類) / 卒業論文 (国際総合学類)

大学院 経済・政策分析 (社会工学学位プログラム)

◆ 指導学生数：

国際総合学類 5人/社会工学学位プログラム 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究 (B) 「低炭素化・エネルギー転換の包摂性評価」 (代表)

科研費基盤研究 (B) 「高レベル放射性廃棄物の最終処分に対する社会的合意形成に関する社会科学的総合研究」 (分担)

科研費基盤研究 (C) 「気候変動危機下の経済システム論」 (分担)

◆ 著書・論文等：

“Reevaluating fair carbon emissions for households in Japan: basic energy needs and subsistence CO₂ emissions,” *Climate Policy*, forthcoming.

“Double energy vulnerability in Japan,” *Energy Policy*, 191, August 2024, 114184 (国際共著) .

◆ その他：

筑波大学システム情報系 Best Paper Award

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学群入学試験実施委員
システム情報系戦略室員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
国際総合学類入試実施委員
国際総合学類運営委員
国際総合学類四年生クラス担任
国際総合学類シス情 TA 担当委員
大学院専攻論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
東京都立桜修館中等教育学校 模擬授業

氏名	鈴木 勉	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担)		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担), サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	立地科学, 都市空間構造, 持続可能型都市形態, 都市リスク分析, 地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
理工学群 数学リテラシー 1
社会工学類 都市数理/都市計画演習/都市解析
博士前期課程 リスク・レジリエンス工学概論/都市・地域解析学/地域データ解析/
レジリエント都市計画演習
- ◆ 指導学生数 :
リスク・レジリエンス工学学位 P 5人/社会工学学位 P 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
第一生命財団研究助成 「人口の年齢構成の変遷パターンと市街地構造・生活利便施設アクセシビリティとの関連性分析」
日本学術振興会受託研究 学術研究動向等に関する調査研究 「建築計画および都市計画関連分野 (主に都市計画分野) に関する学術研究動向ー都市計画分野とその周辺分野における新たな潮流と展開ー」
東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「位置情報ビッグデータを活用した人の移動パターンと都市施設・土地利用・交通網の関係性の分析」
常総市共同研究 「常総市コミュニティバス (JOYBUS) の利用分析に関する研究」
トヨタ自動車共同研究 「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」 (分担)
日本デジタル道路地図協会研究助成 「沿道空き家の規模推計と緊急輸送道路閉塞の影響分析」 (分担)
- ◆ 著書・論文等 :
Daisuke Hasegawa and Tsutomu Suzuki, Theoretical Approach for Selection of Public Transport System Considering Urban Density and Travel Distance, Studies in Housing and Urban Analysis in Japan, Yasushi Asami, Yukio Sadahiro, Ikuho Yamada,

Kimihiro Hino (eds.), Springer, 2024, pp. 271-287.

神崎達也・巖先鏞・鈴木勉, 通学距離最小化と安定マッチングによる学校割当, オペレーションズ・リサーチ, Vol.69, No.7, pp.355-360, 2024.

竹内真雄・早坂遼・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部における GPS データに基づく街区レベル発生集中・滞在移動特性と建物用途構成, 都市計画論文集, Vol.59, No.2, pp.177-188, 2024.

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部における業種構成・滞在パターンに基づく商業集積地の類型化と滞在移動特性の分析, 都市計画論文集, Vol.59, No.3, pp.555-562, 2024.

飛松涼太・巖先鏞・鈴木勉, 小地域人口の年齢構成類型とその遷移から見た安定性分析, 都市計画論文集, Vol.59, No.3, pp.1232-1239, 2024.

神崎達也・巖先鏞・鈴木勉, 人口分布の集積性と鉄道網との連携度の変化動向に関する研究, 都市計画報告集, Vol.23, No.4, 493-498, 2025.

◆ 学会発表等：

神崎達也・EOM Sunyong・鈴木勉, 不安定対からみた人口急増地域における学区編成, 都市の OR スプリングセミナー2024, 2024.

竹内真雄・EOM Sunyong・鈴木勉, 位置情報データによる東京区部商業集積地の滞在移動特性, 都市の OR スプリングセミナー2024, 2024.

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉, 交通量・移動速度に基づく GPS データによる都市交通軸の抽出, 都市の OR サマーセミナー2024, 2024.

飛松涼太・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部における高齢化率と建物用途タイプの推移, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 80-81, 2024.

田村侑介・鈴木勉・大澤義明, 人流データによる滞在者平均年齢の時空間分析 一昼や休日に若返る自治体はどこか？, 地理情報システム学会講演論文集, 2024. (口頭発表)

神崎達也・巖先鏞・鈴木勉, 鉄道網による移動時間短縮を考慮した都市の人口分布の集積性の評価, 地理情報システム学会講演論文集, 2024. (口頭発表) (ポスター)

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部における交通量密度・移動速度に基づく交通軸と移動効率性評価, 地理情報システム学会講演論文集, 2024. (口頭発表) (ポスター)

飛松涼太・巖先鏞・鈴木勉, 東京区部における人口年齢構成と土地利用遷移の関連性分析, 地理情報システム学会講演論文集, 2024. (口頭発表) (ポスター)

竹内真雄・巖先鏞・鈴木勉, 茨城県における年代別行動パターンの類型化, 2024年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2024), 2024.

飛松涼太・石井儀光・鈴木勉, 年齢構成に着目した生活利便施設へのアクセシビリティ分析, 都市の OR ワークショップ 2024, 南山大学, 2024年12月14-15日.

竹内真雄・鈴木勉, 複数モード交通ネットワーク設計問題, 都市の OR ワークショップ 2024, 南山大学, 2024年12月14-15日.

竹内真雄・鈴木勉, 複数モードの組合せによる交通ネットワーク設計, 『日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集』, 52-53, 2025.

飛松涼太・石井儀光・鈴木勉, タワーマンション建設地域における年齢構成と生活利便施設数の遷移分析, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, 54-55, 2025.

- ◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
システム情報工学研究群学務・カリキュラム委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
リスク・レジリエンス工学学位プログラム カリキュラム委員長
リスク・レジリエンス工学学位プログラム UGA 連携対応 WG 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動 :
常総市公共交通活性化協議会 会長
神栖市地域公共交通会議委員
鹿嶋市地域公共交通会議委員
筑西市地域公共交通会議委員
板東市地域公共交通会議委員
八千代町地域公共交通会議委員
銚田市地域公共交通会議委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会 2024 年春季シンポジウム実行委員長・研究発表会
実行委員
麗澤大学 MaaS 研究センター 客員研究員
日本学術振興会学術システム研究センター 専門研究員 (非常勤)

氏名	谷口 守	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域計画、交通計画、環境計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市計画演習／都市計画原論
 - 大学院前期課程 都市と環境／公共インフラ計画／美しい国土づくりへの挑戦 (I)、(II)
／モビリティ・イノベーションの社会応用／地域未来創生概論 I、II
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 6人／社会工学専攻 (博士前期) 11人／社会工学専攻 (博士後期) 5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究(B)「セントラルドグマとしての『都市退化マネジメント』の
進化促進」 (代表)
 - 科学研究費 基盤研究(A)「『クルマ』と『自動化するクルマ』の社会的受容の包括的
理解に向けた学際研究」 (分担)
 - 共同研究 日本航空 (株)「航空移動の価値研究」 (分担)
 - 共同研究 トヨタ自動車 (株)「第2期人間特性モデルに資する研究と人間特性モデル
のライブラリー化 (フェーズII)」 (分担)
 - 寄付金 (一財)日本国土開発未来研究財団 「相反する『分散』『コンパクト』概念を
最適融合する新たな都市・国土構造の提案」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 査読付き論文：
 - 松場拓海・武田陸・宗健・谷口守：COVID-19による「分散型」転居意向の実態、一ポ
ストコロナでの地方居住施策に向けた示唆一、土木計画学論文集(政策と実践)、Vol.80、
No.4、10.2208/jscej.23-00087、2024.4.
 - 久米山幹太・室岡太一・Golubchenko STANISLAVA・谷口守：人の動きにみる鉄道駅
徒歩圏の類型化、一来訪者の個人・移動特性に着目して一、土木学会論文集、Vol.79、

- No.20、23-20017、<https://doi.org/10.2208/jscej.23-20017>、2024.5.
- 川合春平・松浦海斗・谷口守：経路検索 API を用いた公共交通への支出状況の俯瞰的把握、
—個人・都市による負担構造に着目して—、都市計画論文集、Vol.59、No.2、pp.198-204、
10.11361/journalcpj.59.198、2024.10.
- 松場拓海・石橋澄子・森成諒・谷口守：都市別自動車 CO₂ 排出量の長期的変遷の要因、
都市計画論文集、Vol.59、No.2、pp.294-302、10.11361/journalcpj.59.294、2024.10.
- 久米山幹太・宮下和士・谷口守：都市機能誘導区域から見た 15 分都市、—徒歩・自転車
でのアクセスに着目して—、都市計画論文集、Vol.59、No.3、pp.1163-1170、
10.11361/journalcpj.59.1163、2024.10.
- 室岡太一・久米山幹太・谷口守：なぜ歩いていけるにもかかわらず自動車を利用するのか、
—歩いていく x-minute city の実現に向けて—、都市計画論文集、Vol.59、No.3、
pp.836-843、10.11361/journalcpj.59.836、2024.10.
- 小林泰輝・山渕智也・今佐和子・谷口守：ポストコロナにおけるオフィス回帰の実態とそ
の要因、都市計画論文集 Vol.59、No.3、pp.563-570、10.11361/journalcpj.59.563、
2024.10.
- 松浦海斗・室岡太一・宗健・谷口守：徒歩圏の施設立地特性にみる居住満足度の要因分析、
—個人の主観による x-minute city の課題と展望—、都市計画論文集、Vol.59、No.3、
pp.860-867、10.11361/journalcpj.59.860、2024.10.
- 松場拓海・川合春平・谷口守：トリップ目的別にみる自動車 CO₂ 排出量の差異、—個人の
行動に基づく長期的変遷の推計から—、都市計画論文集、Vol.59、No.3、pp.1652-1659、
10.11361/journalcpj.59.1652、2024.10.
- 森成諒・松場拓海・谷口守：全国における関係人口の活動実態、—代表交通手段に着目し
て—、都市計画論文集、Vol.59、No.3、pp.791-797、10.11361/journalcpj.59.791、2024.10.
- 川合春平・松浦海斗・谷口守：家計負担から見る移動のアフォーダビリティ、—交通支出
の全国網羅的把握—、都市計画論文集、Vol.59、No.3、pp.1115-1122、
10.11361/journalcpj.59.1115、2024.10.
- 室岡太一・松浦海斗・谷口守：広域にみる拠点選定手法の提案、—乱立防止と弱者救済の
両立を目指して—、土木学会論文集（政策と実践）、Vol.80、No.11、23-00307、
10.2208/jscej.23-00307、2024.11.
- 小林 泰輝・稲垣 航大・谷口 守：フレキシブルオフィスの利用パターンと満足度の向
上施策 —利用者の類型化を通じて—、土木学会論文集（政策と実践）、Vol. 80、No. 11、
23-00108、<https://doi.org/10.2208/jscej.23-00108>、2024.11.
- 新田 直人・谷口 守：都市的土地利用の手法としての市民農園の展開可能性、土木学会
論文集（政策と実践）、Vol.80、No.11、23-00303、<https://doi.org/10.2208/jscej.23-00303>、
2024.11.
- Golubchenko STANISLAVA , Sumiko Ishibashi, Takeshi So, and Mamoru Taniguchi:

The Determinants and Structure of Happiness in Different Urban Environments, Regional Studies Regional Science(ISSN:2168-1376)、Vol.11、No.1、pp.798-816、2024. 12.

石橋澄子・松場拓海・川合春平・谷口守：外出に対する否定的な感情の発生要因、－RXに向けた対象者像と方策の検討－、土木学会論文集（方法と技術）、Vol.80、No.12、24-00143、<https://doi.org/10.2208/jscej.24-00143>、2024.12.

久米山幹太・松浦海斗・谷口守：居住地から見た x-minute city の成立実態、－コンパクトシティ政策との両立へ向けて－、土木学会論文集（方法と技術）、Vol.81、No.1 24-00144、<https://doi.org/10.2208/jscej.24-00144>、2025.1.

佐藤玄佳・室岡太一・谷口守：国調人口と住基人口の差異が持つ政策的意義、－経年的な変化に着目して－、土木学会論文集・特集号、Vol.80、No.20、(掲載決定、2024年のVolとして印刷中)

◆ 論説等：

都市交通調査ガイダンス（令和6年6月版）：2024.6.

https://www.mlit.go.jp/toshi/tosiko/toshi_tosiko_tk_000024.html

谷口守：「集中」と「分散」を巡るラプソディ、x-minute city と RX(Real Space

Transformation)のハーモニーを、住宅土地経済、No.133、2024 summer、pp.2-7、2024.7.

谷口守：生き物から学ぶ健康なまちづくり、第86回全国都市問題会議、健康づくりとまちづくり、～市民の一生に寄り添う都市政策～、pp.11-13、2024.10.

谷口守：(巻頭言) 都市の「体質改善」は進んだか？ 特集：コンパクトなまちづくりの実効性向上に向けて、～立地適正化計画制度創設10周年～、新都市、Vol.78、No.10、pp.3-5、2024.10.

谷口守：「二地域居住」のこれまでとこれから、NHK 視点・論点、2024.10.29.

谷口守：(基調論文) 公共交通は「地域づくり」の肝、特集：交通システムの活用による地域づくり、月間「地域づくり」、一般財団法人 地域活性化センター、pp.2-5、2024.11.

谷口守：教材としての都市構造可視化計画、pp.11-12、都市構造可視化計画サイトの10年の歩みとこれからの展開に向けて、日本都市計画学会都市構造評価特別委員会、2024.11.

◆ 学会発表等：

◆ 口頭発表：

石橋澄子・松場拓海・川合春平・谷口守：サイバー時代における外出MM設計のためのメンタリティ分析、－RX: Real Space Transformation への一考察－、土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5.

室岡太一・Anarsuvd SUKHBAATAR・久米山幹太・谷口守：ライフスタイルから見る x-minute city の成立可能性、－意欲・行動変容アプローチを考える－、土木計画学研

究・講演集、Vol.69、2024.5.

川合春平・Golubchenko STANISLAVA・谷口守：生活に必要な自動車コストの実態、
一年収に対する負担に着目して－、土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5.

久米山幹太・松浦海斗・谷口守：x-minute city の概念に着目した居住地からの到達時間
分析、土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5.

佐藤玄佳・室岡太一・谷口守：福島原発事故前後の人口変化分析、一国勢調査と住民基本
台帳の差異に着目して－、土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5.

森成諒・石橋澄子・谷口守：空からの関わりを考える、－航空機がつなぐ関係人口－、
土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5.

松浦海斗・室岡太一・宗健・谷口守：住まいから見たコンパクトシティ、－個人の認識に
基づく施設立地の格差－、土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5. [優秀ポスター賞
受賞]

松場拓海・石橋澄子・森成諒・谷口守：都市別自動車 CO₂ 排出量の経年変化、－34 年間・
7 時点に及ぶ時系列分析から－、土木計画学研究・講演集、Vol.69、2024.5.

室岡太一・松場拓海・谷口守：「歩いていける x-minute city」から「歩いていく x-minute
city」へ、－Go-WALKs による個人の類型化を通じて－、第 19 回 JCOMM 福井大会、
2024.8.

川合春平・室岡太一・谷口守：自動車が家計に与える負担の可視化ツール「SiMMobiC」
の開発と活用、第 19 回 JCOMM 福井大会、2024.8.

松場拓海・石橋澄子・川合春平・谷口守：若者に「外出したい」と思わせるには？－RX
(Real World Transformation) に向けた「外出 MM」の方向性－、第 19 回 JCOMM
福井大会、2024.8.

◆ 国際会議

Taiki Kobayashi, Taichi Murooka, and Mamoru Taniguchi: Longitudinal changes in
lifestyle behaviors from the perspective of 'place': towards urban policy development,
46th International Association for Time Use Research Conference, Corfu, Greece,
2024.10.

Taichi Murooka, Taiki Kobayashi, and Mamoru Taniguchi: Are residents satisfied with
the x-minute city considering their lifestyles? Urban Transitions 2024, Sitges,
Barcelona, Spain, 2024.11.

◆ その他：

受賞：BEST FACULTY MEMBER

指導学生受賞：(中川敏正：研究群長表彰／川合春平：研究群長表彰／久米山幹太：学位 プ
ログラムリーダー表彰／小林泰輝：学位プログラムリーダー表彰／森成諒：社

会工学都市計画同窓会最優秀賞（修士論文）／山渕智也：社会工学都市計画同窓会最優秀賞（卒業論文）／Golubchenko STANISLAVA：校友会賞／森成諒：茗溪会賞／中川敏正：文部科学大臣表彰／川合春平・石橋澄子：都市計画学会年間優秀論文賞／中川敏正：土木学会優秀論文賞／松浦海斗：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／中川敏正：日本オープンイノベーション大賞／

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学務・カリキュラム委員、早期修了プログラム実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員長、地域未来創生コース担当

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ◆ 学会活動（役員／委員）：
日本交通計画協会 代表理事
日本モビリティ・マネジメント会議 理事
日本不動産学会 理事
日本都市計画学会 都市構造評価特別委員会 委員
日本交通政策研究会 理事
つくば都市交通センター 評議員
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など：
内閣府 「i-都市再生推進有識者会議」委員
国土交通省 「社会資本整備審議会」委員
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会」分科会長
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会
都市計画基本問題小委員会」委員長
国土交通省 「社会資本整備審議会 建築分科会」委員
国土交通省 「社会資本整備審議会 住宅宅地分科会」副委員長
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会
歴史的風土部会 明日香村小委員会」委員
国土交通省 「交通政策審議会」臨時委員
国土交通省 「立地適正化計画の実効性の向上に向けたあり方検討会」座長

氏名	張 勇兵	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類：情報ネットワーク／情報リテラシー（講義）／情報技術演習／プログラミング実習
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類生：5名
 - 社会工学専攻博士後期課程：2名
 - 社会工学専攻博士前期課程：3名
 - 博士研究員：1名

2. 研究

- 当該年度の研究活動概要：
 - モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスティック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- 著書・論文等：
 1. C. Jin, Y. Zheng, M. Yang, and Y. Zhang: Efficient Optical Line Terminal Placement for Passive Optical Network Deployment, *IEEE Access*, Vol. 13, Paper No. 38794, 16 pages (Mar. 2025) DOI: 10.1109/ACCESS.2025.3546666
 2. Y. Zheng, W. Zheng, M. Yang, C. Jin, C. Zhang, and Y. Zhang: Dynamic Routing, Spatial Channel, and Spectrum Assignment (RSCSA) in Spatial Channel Networks (SCNs) based on Granularity Switching Threshold, *OSA/IEEE Journal of Optical Communications and Networking*, Vol. 16, No.9, pp. 905-917 (Aug. 2024). DOI: <https://doi.org/10.1364/JOCN.523666>
 3. W. Zheng, J. Li, M. Ke, M. Yang, Y. Zheng, C. Zhang, Q. Liu, Y. Zhang, and K. Yang: Optimizing Spatial Channel Networks (SCNs) in Hierarchical Optical Cross-Connect (HOXC) Architectures:

Impact of Wavelength Switching Granularity on Performance, *Computer Networks*, Vol. 250, No. 110572 (Aug. 2024). DOI: <https://doi.org/10.1016/j.comnet.2024.110572>

- 学会発表等：
 1. Y. Zheng, W. Zheng, M. Yang, and Y. Zhang: Shared Rerouting Backup Path Protection (SRBPP) Technology Based on Elastic Optical Networks, *Proc. Int. Conf. Information Networking (ICOIN2025)*, 2 pages, Chiang Mai, Thailand, Jan. 14-17, 2025.
- その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系情報環境委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類コンピュータ委員長、社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類教学マネジメント・FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 1) **Associate Editor** (2007～), *Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications*, Springer.
 - 2) **Japanese representative of IFIP Technical Committee 7** (System Modelling and Optimization) (2020～)
 - 3) **Program Committee**, IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC2025), Milan, Italy, March 24 – 27, 2025.
 - 4) **Program Committee**, IEEE Int. Conf. Future Communications and Networks (FCN2024), Valletta, Malta, November 18-22, 2024.
 - 5) **Referee** for ACM Transactions on Intelligent Systems and Technology

氏名	フندوقク トゥアン	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率論, 応用確率過程, システムのモデル化・性能評価		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

応用確率論, 社会工学演習, 社会と最適化, 情報ネットワーク, 社会工学のための数学, 数理工学モデル化演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人

社会工学専攻 10人 (博士後期課程 3名, 修士課程 7名)

2. 研究

1. 当該年度の研究活動概要：

2021年4月～2025年3月： 処研究課題番号：21K11765 日本学術振興会/科研費 基盤研究(C), 研究課題「理能力可変型待ち行列モデルの理論的発展と大規模省エネデータセンターへの応用」代表

2. 著書・論文等：

※査読付学術雑誌掲載論文、著書（専門書）、解説論文・総説論文などの実績

1. D. Fiems and T. Phung-Duc, “Performance analysis of a collision channel with abandonments,” *Performance Evaluation*, Vol. 165, Article no. 102424, 2024.
2. Y. Koyama, A. Nakamura, and T. Phung-Duc, “Sojourn Time Analysis of a Single-Server Queue with Single- and Batch-Service Customers,” *Mathematics*, Vol. 12, No. 18, Article no. 2820, 2024, **Editor’s Choice**.
3. K. Wakigami, F. Machida, and T. Phung-Duc, “Empirical architecture comparison of two-input machine learning systems for vision tasks,” *ACM Formal Aspects of Computing*, Vol. 36, No. 4, Article No. 22, pp. 1–19, 2024.
4. A. Nakamura and T. Phung-Duc, “Fair and efficient sharing: Dynamic pricing control for shuttle bus system with strategic customers,” *Transportation Research Part C: Emerging Technologies*, Vol. 171, Article No. 104994, 2025.
5. T. Le-Anh and T. Phung-Duc, “Energy-Performance Tradeoffs in Server Farms with Batch Services and Setup Times,” *Performance Evaluation*, Vol. 168, Article

No. 102468, 2025.

6. K. Inami and T. Phung-Duc, “Analysis of Dynamic Transaction Fee Blockchain using Queueing Theory,” *Mathematics*, Vol. 13, No. 6, Article no. 1010, 2025, Feature Paper.
 7. K. Tsutsumi, T. Phung-Duc and H. -L. Truong, “Queueing Analysis of an Ensemble Machine Learning System,” In: Devos, A., Horvath, A., Rossi, S. (eds) *Analytical and Stochastic Modelling Techniques and Applications. ASMTA 2024. Lecture Notes in Computer Science*, vol 14826, pp. 97--111, Springer, Cham, 2024.
 8. M. Gribaudo and T. Phung-Duc, “Analytical Modelling of Asymmetric Multi-core Servers,” In: Doncel, J., Remke, A., Di Pompeo, D. (eds) *Computer Performance Engineering. EPEW 2024. Lecture Notes in Computer Science*, vol 15454, pp. 121--136. Springer, Cham, 2025.
 9. Y. Sakai, Y. and T. Phung-Duc, “Analysis of a Batch Arrival Queue with Power Saving Mode,” In: Dudin, A., Nazarov, A., Moiseev, A. (eds) *Information Technologies and Mathematical Modelling. Queueing Theory and Related Fields. ITMM 2024. Communications in Computer and Information Science*, vol 2472, pp. 181--192, Springer. Cham, 2025.
 10. A. Nakamura, and T. Phung-Duc, “Equilibrium Analysis and Social Optimization of a Selectable Single or Batch Services with General Service Time Distribution,” In: Liberatore, F., Wesolkowski, S., Parlier, G. (eds) *Operations Research and Enterprise Systems. ICORES 2024. Communications in Computer and Information Science*, vol 2545, pp. 47--65. Springer, Cham, 2025.
 11. M. Gribaudo and T. Phung-Duc, “Analytical Modelling of Asymmetric Multi-core Servers,” *EPEW 2024*, 8 pages, Venice, Italy, June 14, 2024.
 12. Y. Sakai and T. Phung-Duc, “Analysis of a Batch Arrival Queue with Power Saving Mode,” *Proceedings of ITMM’ 2024*, pp. 70--75, Karshi, Uzbekistan and Online, October 20-26, 2024.
3. 国内学会発表等：
1. Le-Anh Thu, Tuan Phung-Duc, A Faster Algorithm for Multiserver Queueing Systems with Setup Times and Power-saving Modes, 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集, 2024年12月4日(水)~6日(金), 神奈川工科大学 IT エクステンションセンター.
 2. 安部 和真, フンドック トゥアン, Mean-field analysis of a large-scale bipartite queueing model for threshold-based mobile edge computing, 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集, 2024年12月4日(水)~6日(金), 神奈川工科大学 IT エクステンションセンター.
 3. 中村彩音, フンドック トゥアン, シェアリングシステムにおける Dynamic Pricing

Control – 待ち行列ゲームによるモデル化と解析 – , 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2024 年秋季研究発表会, 南山大学, 愛知県, 2024 年 9 月 10 日~11 日.

4. 稲見洗紀, フンドクトゥアン, 動的な承認料金を考慮したブロックチェーンのモデル化と解析, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2024 年秋季研究発表会, 南山大学, 愛知県, 2024 年 9 月 10 日~11 日.
5. Thu Le-Anh, Tuan Phung-Duc, M/M/c/setup Queues with Batch Services, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2024 年秋季研究発表会, 南山大学, 愛知県, 2024 年 9 月 10 日~11 日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 日越大学公共政策プログラム運営委員会委員 (全学)
 - 留学生委員 (研究群)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - 学生・留学生相談委員長
 - 大学院入試委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

学術論文誌の編集員

1. Associate Editor for Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017~現在
2. Associate Editor for Journal of the Operations Research Society of Japan from June 2019~March 2025
3. Editor for MDPI Mathematics from March 2021~現在

国際会議のプログラム委員等 (Technical Program Committee etc.)

1. Steering Committee of European Conference on Queueing Theory.
2. Technical Program Committee of 21th European Performance Engineering Workshop (EPEW 2025), June 26th, 2025, Catania, Italy.
3. Technical Programme Committee of International Conference on Quantitative Evaluation of SysTems), August 25-30, 2025, Aarhus, Denmark.
4. Technical Programme Committee of VALUETOOLS 2024 (17th EAI International Conference on Performance Evaluation Methodologies and Tools), December 12-13, 2024, Milan, Italy.
5. Technical Programme Committee of The INTERNATIONAL TELETRAFFIC CONGRESS (ITC 36), June 02 - 05, 2025, Trondheim, Norway.

国内学会・研究集会の委員

1. 第 41 回 (2024 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

氏名	八森 正泰	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジ的組合せ論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 微積分2 (総合学域群) / 微積分3 / 離散数学 / 囲碁で培う思考力 (全学)
大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 4人
社会工学専攻 (前期課程) 3人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究 (C) 「Nonpure 複体の分割構造を軸とした単体的複体の組合せ構造の探求」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：
Masahiro Hachimori, Atsuhiko Nakamoto, Kenta Ozeki, Coloring zonotopal quadrangulations of the projective space, European Journal of Combinatorics 125 (2025), 104089.
Masahiro Hachimori, Kenji Kashiwabara, Several minimality concepts related to Frankl's conjecture, Graphs and Combinatorics 40 (2024), article number 130.
- ◆ 学会発表等：
八森正泰, 「Nonpure な単体的複体の分割と h-triangle」, 日本数学会 2024 年度年会, 早稲田大学, 2025 年 3 月 18-21 日.
八森正泰, 「根付確率グラフにおける average expected value を求めるモンテカルロ法とその応用」, 2024 年度応用数合同研究集会, 龍谷大学, 2024 年 12 月 5-7 日.
八森正泰, 「ポセットの acyclic recursive signing 再考」, 7nd Pacific Workshop on Discrete Mathematics, 東海大学品川キャンパス, 2024 年 8 月 27 日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学計算機システム仕様策定委員
 - 全学計算機システム導入・仕様策定 WG
 - 理工学群寺子屋塾実施委員会 委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 学類 コンピュータ委員，カリキュラム委員
 - 大学院 コンピュータ委員，数理の交差点委員会(シス情数学域交流窓口)

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - Graphs and Combinatorics 誌 Editorial Board member
 - 組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事
 - JCCA メーリングリスト管理

氏名	藤井 さやか	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 BPGI 講義担当		
研究分野	都市計画, 住環境整備, まちづくり法制		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類 都市計画入門／土地利用計画／住環境計画実習／現代まちづくり論／都市計画事例講義
- 大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップ I・II／社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II (国際交流ワークショップ A・B／まちづくりワークショップファシリテーター研修／つくば市 PJ 型共同研究実習)

◆ 指導学生数：

- 社会工学類 3 人、BPGI 1 人
- 社会工学学位プログラム博士前期 8 人、博士後期 3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 令和 5-8 年度科学研究費・基盤研究 (B) (代表), 「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」の形成実態と展開可能性」(23H01575→23K26269)
- 令和 4-6 年度科学研究費・挑戦的研究 (萌芽) (代表), 「スペースシェアリングを活用した高経年戸建住宅地再生・継承モデルの構築」(22K18839)
- 令和 6-9 年度科学研究費・基盤研究 (B) (分担・大澤昭彦), 「超高層住宅の二重の老いの潜在的課題に関する研究」(24K01057)
- 2022-2024 年度公益社団法人日本都市計画学会・研究交流事業「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」に関する研究会」
- 2024-2025 年度共同研究・鹿島建設株式会社 (分担・鈴木健嗣), 「教育研究環境の改善に向けた、第三エリアを中心としたキャンパス空間の再構築に関する研究」
- 2024-2025 年度学術指導・野村不動産株式会社 (代表), 「まちづくりを含む不動産開発に関する指導」
- 2024 年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト (代表), 「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」

- ◆ 著書・論文等：
 - 石川 夏帆, 藤井 さやか: 多様な主体が関わる出産祝いプロジェクトの成立経緯と参加主体にもたらす変化に関する研究, 都市計画論文集 59-3, pp.1383-1390, 2024
 - 佐藤 耀, 根岸 龍宏, 藤井 さやか: 計画的戸建住宅地における駐車場シェアの導入意向と活用可能性に関する研究, 都市計画論文集 59-3, pp.752-759, 2024
 - 大森 聡, 藤井 さやか: 住宅建替えと一体的に再整備された街区公園の維持管理活動を通じたコミュニティ形成に関する研究, 都市計画論文集, 59-3, pp.714-721, 2024
 - 鳩貝 優太, 藤井 さやか: 首都圏郊外におけるリノベーションまちづくりの成果と課題に関する研究, 都市計画論文集, 59-3, pp.1391-1398, 2024-10-25
 - 藤井さやか: 都市計画とデータサイエンス, 佐久間淳・國廣昇編著『データサイエンスはじめの一步』(304p), p.72-79, 講談社, 2024-08.
 - 藤井さやか, 後藤智香子: 社会的包摂とデザイン—「つながる場」15 事例の実践から, 都市計画, 373, pp.54-57, 2025-3.
 - 藤井さやか: 外国人住民との共存・共生: 海外の事例からの示唆, 都市問題, 115(12), pp.11-16, 2024-12.
- ◆ 学会発表等：
 - Satoshi Omori, Sayaka FUJII: Public-private partnership renewal and citizen participatory management of the neighbourhood park: A case of the Takezono West Square Park in Tsukuba city, Japan, Urban Transitions 2024, 2024-11-09.
 - Yuna Matsubayashi, Hiroko Saito, Sayaka FUJII: Study of the Community Association in single-family homes of Japan, Annual Meeting Program of Association of American Geographers (AAG), 2024-04-19.
- ◆ その他：
 - 藤井さやか: 区分所有マンションを含む市街地再開発事業の有効空地を考える, 再開発コーディネーター, 234, p31, 2025-03.
 - 藤井さやか: 住宅地における地区計画や認可協定の今後, 家とまちなみ, 43(1), pp8-13, 2024-05.
 - 藤井さやか: 住宅団地の外国人集住: 特集の趣旨, 住宅, 73(5), p.2, 2024-05.
 - 藤井さやか: 増加する外国人の受け皿としての住宅団地, 住宅, 73(5), pp.3-8, 2024-05.
 - 藤井さやか・王爽: 国勢調査分析からみる外国人集住団地の実態, 住宅, 73(5), pp.9-12, 2024-05.
 - 村木美都子・藤井さやか: 京都市東松ノ木市営住宅, 住宅, 73(5), pp.13-19, 2024-05.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- 全学：学生宿舎リニューアル検討委員会委員／学生宿舎リニューアル計画及び未来社会デザイン棟（仮称）作業部会構成員
- システム情報工学研究群：システム情報工学研究群入試実施委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学・サービス工学学位プログラム：入試実施委員会副委員長
 - 社会工学類：2年生担任／建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 日本都市計画学会学術委員会委員
 - 日本都市計画学会会長アドバイザー会議
 - 日本建築学会住宅地計画小委員会幹事
 - 日本不動産学会事業企画委員会委員
 - 日本住宅協会 編集アドバイザー
 - 一般財団法人住総研 郊外住宅地のネイバーフッドマネジメント研究会
- ◆ 講演等：
 - モデレーター，「空き空間を活用した「つながる場」から生まれる多様な展開」，2024年度日本都市計画学会全国大会（第59回論文発表会）ワークショップ，2024年11月2日，北九州国際会議場。
 - 話題提供，「都市計画・まちづくりから考える居場所の意義」，『関わりが生まれる居場所づくりとまちづくり』IBASHO研究会，2025年3月22日，オンライン開催。
 - 基調講演・コーディネーター，「多様な主体の共創でつくるまちの未来」，まちづくりシンポジウム2024『公民連携による未来へとつながるまちづくり』，2025年1月21日，常総市地域交流センター。
 - 話題提供，「つくばのまちをアップデートしたい！」，『都市をアップデートするスタートアップの挑戦』，2024年10月9日，つくばスタートアップパーク。
- ◆ 学外委員：
 - 内閣府総合特別区域評価・調査検討会委員／内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員／経済産業省地域経済産業分科会臨時委員／国土交通省集団規定に係る基準検討委員会委員／国土交通省国土政策局地域振興課地域づくり表彰審査会委員／国土交通省かわまち大賞審査委員会委員／国土技術政策総合研究所評価委員会第二部会委員／関東財務局つくば市吾妻二丁目に所在する70街区に係る二段階一般競争入札審査委員会委員長
 - 東京都開発審査会委員／茨城県都市計画審議会委員／茨城県開発審査会委員／茨城県つくばエクスプレス沿線地区土地処分委員会特別委員／茨城県島名・福田坪特定土地区画整理審議会／茨城県上河原崎・中西特定土地区画整理審議会／柏都市計画事業

柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員

- 板橋区都市計画審議会委員／板橋区都市計画審議会都市づくりビジョン改定部会委員会委員／板橋区住宅対策審議会委員／板橋区住宅対策審議会専門部会委員／板橋区老朽建築物等対策協議会会長／アーバンデザインセンター高島平専門アドバイザー／墨田区都市計画審議会委員／墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員／墨田区建築審査会委員／墨田区錦糸町まちづくりビジョン検討会議アドバイザー／大田区まちづくり認定審査会副会長／目黒区都市計画審議会委員／目黒区景観審議会委員／文京区住宅政策審議会委員／文京区住宅政策審議会小委員会委員
- つくば市都市計画審議会委員／つくば市大規模事業評価委員会委員／つくば市公有地利活用方策検討会常任委員／つくば市先端的サービス実装推進拠点基本調査委託公募型プロポーザル選定委員会委員／つくば市産業用地創出に向けた基礎資料作成業務委託に係る公募型プロポーザル候補者選定委員会委員／つくば市都市計画課まちづくり専門家アドバイザー／つくば市スマートシティ協議会インフラ・都市デザイン分科会リーダー
- 土浦市公共施設再編・再配置計画策定委員会副会長／守谷市空家等対策協議会委員会会長／八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長
- 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員
- 公益社団法人 UWC 日本協会派遣奨学生選考委員

氏 名	藤川 昌樹	職 名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位 P (専任)		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
担当学類	社会工学類 (専任)		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学 類 都市計画の歴史／現代まちづくり論／住環境計画演習
 - 大学院 都市形成史/社会工学 WS I・II
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 1人
 - 社会工学学位プログラム 前期 8人 後期 7人
 - 社会工学学位プログラム研究生 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・受託研究「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」(代表)
 - ・受託研究「都市・住宅・クルマの相互関係比較史」(分担)
 - (モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究、トヨタ自動車、代表：吉瀬章子)
 - ・受託研究「かすみがうら市の歴史的建造物活用に関わる調査研究」(分担)
 - (Rコーポレーション、代表：山本幸子)
 - ・基盤研究 (A)「大火からの復興を通して見た近代の町並みの再評価」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
 - ・徐暢・藤川昌樹「近代中国青島市における「雑院一覧表 二十四年夏季」について」
 - (<https://doi.org/10.3130/aijt.30.1062>、『日本建築学会技術報告集』30巻75号、pp.1062-1067,2024年6月)
 - ・藤川昌樹「旧木村家住宅の沿革」「史料翻刻「木村家系記」」(藤川昌樹・安高尚毅・高宮英司編『旧木村家住宅調査報告書』桜川市建設部都市整備課、pp.4-23及びpp.40-51、2025年3月)・藤川昌樹「新刊紹介『リスボン』」(『建築史学』81、p.223-226、2023年9月)
 - ・呂志裕・藤川昌樹「絵画史料からみる清代蘇州の吊橋における橋空間の変化」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.591-592、2024年7月
 - ・楊佳樂・藤川昌樹「嵩山における歴史的建築群の空間構成2 一創建時期、立地、方位、地形に着目して一」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.631-632、2024年7月

氏名	繆 瑩	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組合せ論, 情報理論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 離散数学／情報ネットワーク／微積分 2／微積分 3／社会と最適化
大学院 情報セキュリティ
- ◆ 指導学生数 :
社会工学類 0 人
社会工学専攻 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
科学研究費 基盤研究 (C) 「不正者追跡アルゴリズムの開発とその応用」(代表)
- ◆ 著書・論文等 :
 1. H. Cai, Y. Miao, M. Schwartz, X. Tang, Repairing schemes for Tamo-Barg codes, IEEE Transactions on Information Theory, Vol. 71, Issue 1, 2025, pp. 227-243.
 2. M. Shao, Y. Miao, A construction of optimal one-coincidence frequency-hopping sequences via generalized cyclotomy, Entropy, Vol 26, Issue 11, 2024, Article 935.
- ◆ 学会発表等 :
 1. J. Fan, Y. Gu, Y. Miao, Z. Yu, List-decoding separable matrices for non-adaptive combinatorial group testing, 2024 IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT), pp. 3237-3242.
 2. L. Jiang, Y. Gu, J. Fan, Y. Miao, Existence and algorithmic construction of q -ary secure codes with list decoding, 2024 IEEE Information Theory Workshop (ITW), pp. 585-590.
- ◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
システム情報系 : コンプライアンス委員

システム情報工学研究科：入試実施委員

理工学群：共通数学検討委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院：入試実施委員

域：経営工学人事世話人

学類：4年生クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

◇ Medals Committee Chair: Institute of Combinatorics and its Applications, April 2024 - March 2025.

◇ Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.

◇ Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present.

◇ Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present.

◇ Editor: Bulletin of the Institute of Combinatorics and its Applications, January 2017 - present.

◇ Editor: IEEE Transactions on Information Theory, December 2023 - present.

◇ Editor: Confressus Numerantium, January 2024 - present.

氏名	吉瀬 章子	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	数理最適化, オペレーションズ・リサーチ, サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法／社会と最適化
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／ビジネス戦略：理論と実践／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計13名
システム情報工学研究科
社会工学専攻・社会工学学位プログラム 2名
社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 7名
理工学群社会工学類 4名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：数理最適化の理論と応用に関する研究を行った。理論に関しては錐最適化あるいはリーマン最適化に対するアルゴリズムの開発とその検証、応用に関しては、数理最適化を用いたモビリティ・イノベーションあるいはサービス・イノベーションにおける事業分析などに取り組んだ。
- ◆ 科学研究費 基盤研究 (B)「リーマン多様体上の制約付き最適化問題に対する汎用アルゴリズムの理論と実装」(代表)
科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「リーマン多様体上の最適化理論に基づく新たなデータコラボレーション手法の開発」(代表)
共同研究(トヨタ自動車株式会社)「第2期(フェーズI) 助走期間における第2期研究テーマの創出」(分担)
共同研究(トヨタ自動車株式会社)「第2期人間特性モデルに資する研究と人間特性モデルのライブラリー化」(分担)
科学研究費 基盤研究 (C)「DM 最適化問題を解く実用的アルゴリズムに関する研究」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - ◇ Kanoh, Shin-ichi, and Akiko Yoshise. "A new extension of Chubanov's method to symmetric cones." *Mathematical Programming* 205.1 (2024): 773-812. 査読有

- ◇ Lai, Zhijian, and Akiko Yoshise. "Riemannian interior point methods for constrained optimization on manifolds." *Journal of Optimization Theory and Applications* 201.1 (2024): 433-469. 査読有
 - ◇ Nosaka, Keiyu, Yuichi Takano, and Akiko Yoshise. "Data Collaboration Analysis with Orthogonal Basis Alignment." arXiv preprint arXiv:2403.02780. 査読無
 - ◇ Kanoh, Shin-ichi, and Akiko Yoshise. "Post-Processing with Projection and Rescaling Algorithms for Semidefinite Programming." arXiv preprint arXiv:2401.10429 (2024). 査読無
 - ◇ Nosaka, Keiyu, and Akiko Yoshise. "Data Collaboration Analysis for Distributed Datasets With Orthogonal Integration Matrices." *人工知能学会全国大会論文集 第38回* (2024). 一般社団法人 人工知能学会, 2024. 査読無
- ◆ 学会発表等：
- ◇ 中村凌也, 吉瀬章子. 「大学入試における屋内連絡員の人員配置システム開発」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季発表会 2025, 成蹊大学, 日本, 2025年3月6日～7日.
 - ◇ 本村力希, 吉瀬章子. 「実運用を考慮した予約制乗合タクシーの配車スケジューリング作成」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季発表会 2024, 南山大学, 日本, 2024年9月10日～11日.
 - ◇ Nosaka, Keiyu, and Akiko Yoshise. "Procrustean Data Collaboration for Cross-Silo Privacy-Preserving Machine Learning," 25th International Symposium on Mathematical Programming (ISMP), Montréal, Canada, 2024-07-21 – 2024-07-26.
 - ◇ Lai, Zhijian, and Akiko Yoshise. "Riemannian Interior Point Methods for Constrained Optimization on Manifolds," 25th International Symposium on Mathematical Programming (ISMP), Montréal, Canada, 2024-07-21 – 2024-07-26.
 - ◇ Nosaka, Keiyu, and Akiko Yoshise. "Procrustean Data Collaboration for Cross-Silo Privacy-Preserving Machine Learning," Sixth Conference on Discrete Optimization and Machine Learning, Tokyo, Japan, 2024-07-08 – 2024-07-10.
- ◆ その他：なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - (全学) 教育社会連携推進室長, 保育施設委員会委員, 附属図書館運営委員
 - (人工知能科学センター) 人工知能基盤研究部門長
 - (計算科学研究センター) 研究倫理委員会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
（学位プログラム）運営委員， 予算委員
（学類）運営委員， 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）
Numerical Algorithms, Editorial Board
Pacific Journal of Optimization, Editorial Board
Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics, Editorial Board
Mathematical Optimization Society, ISMP2027 Symposium Advisory Committee
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
内閣府 人間中心の AI 社会原則会議/構成員
つくば市 つくば市未来構想等推進会議委員/座長科学技術振興機構
つくば市 つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業審査委員

氏名	渡辺 俊	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻・環境科学専攻 (生命環境科学研究科)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築情報学、都市情報学、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 空間デザイン論／都市計画情報演習／
 - 住環境計画演習／設計演習Ⅱ
 - 大学院 空間情報科学／地域データ解析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人／社会工学学位プログラム4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ジェネレーティブデザインによる知能増幅環境の構築と設計教育プログラムでの試行
 - 3D都市モデル (PLATEAU等) を用いた都市環境評価手法の開発
- ◆ 著書・論文等：
 - 宮下開成、渡辺俊：街路網の広がりから見た城下町の空間構成の変容に関する研究、日本建築学会計画系論文集 第89巻 第825号、2087頁～2092頁、2024年11月 (DOI <https://doi.org/10.3130/aija.89.2087>)
 - Jingyi XU、渡辺俊：超一線都市の若者向けマンションの立地分析：広州を例にして、第47回 情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2024年12月
 - 宮下開成、渡辺俊：歩行者の空間学習を支援するナビゲーション手法に関する研究、第47回 情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2024年12月
- ◆ 学会発表等：
 - 宮下開成、渡辺俊：デジタルゲームにおけるナビゲーションが探索行動に与える影響、2024年度 日本建築学会大会 [関東]、2023年8月
 - Jingyi XU、渡辺俊：超一線都市の若者向けマンションの立地分析—広州を例にして、2024年度 日本建築学会大会 [関東]、2023年8月

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - 社会工学類 3年クラス担任

社会工学類 入試実施委員長
社会工学類 建築士受験資格運営委員会委員
社会工学類・社会工学専攻 就職委員長
社会工学類・社会工学専攻 コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員
日本建築学会デザイン科学小委員会委員
茨城県立つくばサイエンス高等学校・サイエンスアドバイザー
他

氏名	上市 秀雄	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論／戦略行動システム演習
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 5名
 - 社会工学学位プログラム 博士前期課程 5名
 - 社会工学学位プログラム 博士後期課程 7名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、ストレス対処、消費者心理など
- ◆ 著書・論文等：
 1. Ni, S., & Ueichi, H. (2024).
Exploring the Relationship Between Different Consumer Behaviors and Subjective Well-Being in Japan:A Focus on Prosocial, Sustainable, Experiential, and Conspicuous Consumption. *SAGE Open*, 14(4), 21582440241299273.
 2. Sanai, S., & Ueichi, H. (2024).
Factors that foster individual willingness to serve.
in rehabilitation-oriented penal sector volunteer roles in Japan.
International Journal of Law, Crime and Justice, 77, 100673.
- ◆ 学会発表等：
 1. 上市秀雄・卞佳琦 (2024).
中国人看護師支援における共感疲労に影響を及ぼす要因.
日本心理学会第 88 回大会発表論文集. 3D-096-PR.

2. 王彤鶴・上市秀雄 (2024).

中国大学生における性格特性が学校適応感に影響するプロセス。
—とりあえず進学を中心として—

日本心理学会第 88 回大会発表論文集. 3D-070-PP.

3. 讚井知・上市秀雄 (2024).

メディア・システムと現実感の関係.

日本心理学会第 88 回大会発表論文集. 1D-013-PC.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

研究群企画室委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類入試実施委員

社工学位プログラムリーダー意向調査管理委員会 委員長

3年クラス担任

授業世話人（学類：意思決定論，大学院：サービス満足度解析）

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

学会委員等

産業・組織心理学会 理事

日本応用心理学会 企画委員

学会誌査読

心理学研究，日本リスク学会

氏名	梅本 通孝	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
専攻（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域防災		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 都市防災計画/都市・地域科学演習/都市計画事例講義
 - 大学院： 都市リスクマネジメント論/レジリエント都市計画演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人
 - リスク・レジリエンス工学学位プログラム 7人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 河川氾濫時の広域避難効果に関する研究
 - 災害応急対応期の自治体間連携に関する研究
 - 中国中山間地域におけるコミュニティ防災に関する研究
 - 中国北京市における豪雨災害時の情報伝達に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - 海老原将, 梅本通孝：戦略的広報モデルを活用した住民への#7119周知促進策に関する研究, 災害情報, No.23-2, 日本災害情報学会, (登載決定; 印刷中)
 - 趙旭青, 梅本通孝：中山間地域における住民の避難意向や協働避難意識の向上に向けたマイ&協働タイムライン作成ワークショップの実践, 災害情報, No.23-2, 日本災害情報学会, (登載決定; 印刷中)
 - WANG HANFEI, 梅本通孝：北京市住民における豪雨警戒情報の理解に対する影響要因に関する分析, 地域安全学会論文集, No.46(電子ジャーナル), pp.1-11, 2025.3
 - 松岡あやめ, 梅本通孝：復興まちづくり訓練手法を援用した住民主体の水害防災まちづくりに関する検討, 都市計画論文集 Vol.59, No.3, 日本都市計画学会, pp.1541-1548, 2024.10
- ◆ 学会発表等：
 - 松岡あやめ, 梅本通孝：流域治水プロジェクトにみる水害を対象とした事前復興まちづくりの取り組み, 地域安全学会梗概集, No.54, pp.137-140, 2024.

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究群 FD 委員会 委員長
システム情報工学研究群学務・カリキュラム委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 教育企画・FD 委員長
リスク・レジリエンス工学学位プログラム カリキュラム委員会 委員
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 広報委員会 委員
リスク・レジリエンス工学学位プログラム R2EC 対応委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
地域安全学会 理事
日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員
地域安全学会論文集 査読者
日本都市計画学会論文集 査読者
日本建築学会論文集 査読者
日本災害情報学会誌 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員
鳥取県原子力安全顧問
東京消防庁火災予防審議会 委員
東京消防庁火災予防審議会調査研究委員会 委員
茨城県稲敷市都市計画審議会 会長
茨城県稲敷市都市計画マスタープラン策定委員会 委員長
茨城県潮来市総合計画等有識者会議 座長
茨城県稲敷郡河内町都市計画マスタープラン・立地適正化計画策定委員会 委員
日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員，国際事業委員会書面審査員・書面評価員
- ◆ 講演等
梅本通孝：津波ってどんなもの，神栖市立神栖第一中学校防災シンポジウム講演会，神栖市，2024.12.13
梅本通孝：日本災害リスクと防災のフレーム，令和 6 年度土浦日本大学学園講演会，土浦市，2024.11.30
梅本通孝：災害時応急対応のあり方—国内の事例と海外の方策—，日本技術士会経営工学部会例会講演会，東京都港区，2024.8.24

氏名	浦田淳司	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任) サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類 (協力)		
研究分野	行動科学、都市交通計画、災害避難、非定常システムマネジメント		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画マスタープラン演習、微積分 1、実践入門！AI・データサイエンス～基礎と展開～、都市数理

【大学院】MDA 異分野連携ゼミナール、MDA 異分野融合ゼミナール、MDA 後期プロジェクト研究、MDA 後期研究留学、MDA トップ人材特別演習

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

JSPS 科学研究費補助金 (基盤 B)、災害時交通網の動学的設計にむけた不確かさ回避行動の評価手法の構築(代表)、2023-2026 年度

JST 創発的研究支援事業、災害時都市活動支援のための software2.0 型シミュレータの構築(代表)、2023-2025 年度

本田技研工業株式会社、コネクテッドカー開発に関するデータ活用とソフトウェア開発高速化、その他に関する研究、2024-2025 年度

◆ 著書・論文等：

河瀬理貴, 井料隆雅, 浦田淳司, 人道支援ロジスティクスにおける在庫モデルのレビューと展望-商業分野の理論研究を踏まえて-, 土木学会論文集, No. 80, Vol.20, 24-20072, 2024.

Y. Mochizuki, J. Urata and E. Hato, “Object-Oriented Bayesian Networks for Activity-Based Model with Deep Generative Graph Averaging,” 2024 IEEE 27th International Conference on Intelligent Transportation Systems (ITSC), Edmonton, AB, Canada, 2024, pp. 653-660.

(編)浦田淳司, 中村ゆかり, 北村元 / 土木学会誌編集委員会 (2025) 土木の群像, 土木学会.

◆ 学会発表等：

Urata, J., Mochizuki, Y., Hato, E., Activity Chain Generation with Dynamic Object-Oriented Bayesian Networks, the Conference in Emerging Technologies in Transportation Systems (TRC-30), September 02-03, 2024, Crete, Greece.

寺山 一輝, 本谷 心彩, 浦田 淳司, 中山 凜空, 中嶋 駿, 山口 裕通: 能登半島地震における生活インフラの復旧過程と滞留人口の関係, 第 70 回土木計画学研究発表会, No.P30-03, 2024.

- ◆ 受賞:
筑波大学若手研究奨励賞 (2024 年度), 浦田淳司

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
分野融合型数理・データサイエンス・AI 教育推進本部および数理・データサイエンス・AI (MDA) 教育推進室で MDA 応用基礎、データ・サイエンス・エキスパート・プログラム (DSEP) 等の全学の MDA 教育の企画・推進を担当
全学教育課程委員会に MDA 応用基礎担当のオブザーバーとして参加
MDA 高度人材育成事業の DSMP 分科会の委員として参加

4. 学外の社会貢献

- ◆ 社会活動:
つちうら MaaS 推進協議会 委員 (2023. 04-)
つくばみらい市行政改革懇談会委員 (2023. 09-2026. 09)
- ◆ 学会関連活動:
土木学会誌編集委員会副幹事長 (2024. 06-2026. 05)
計画・交通研究会 スマートシティ・カーボンニュートラル小研究会主査 (2023. 04-)
土木学会 110 周年実行委員会幹事会幹事 (2023. 10-2025. 03)
土木計画学研究委員会委員兼幹事 (2022. 09-2024. 08)
土木計画学 令和 6 年能登半島地震対応 特別プロジェクト 委員 (2024. 02-)
Local Committee, The 12th Triennial Symposium on Transportation Analysis (TRISTAN XII) (2022. 07-2025. 09)
復興デザイン会議幹事長補佐 (2020. 06-)

氏名	大久保 正勝	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 情報リテラシー演習／社会工学演習／マクロ経済学／マクロ計量分析
大学院 資産評価論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究 (C) 「モデル不確実性を考慮したマクロ経済モデルの実証的評価と分析手法の開発」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：
Masakatsu Okubo, “On Normalization of the Intertemporal Marginal Rate of Substitution for Recursive Utility Models with Nonseparability across Goods,” University of Tsukuba, Department of Policy and Planning Sciences Discussion Paper Series No.1397

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
入学試験問題出題専門委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
大学院カリキュラム委員会委員
学位プログラム施設委員会委員
学類施設委員会委員
学類4年クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
なし

氏名	太田 充	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学, 地域科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング入門 AB/都市数理
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学専攻 0 人／社会工学学位プログラム 13 人／サービス工学学位プログラム 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
・基盤研究 C「衛星情報を利用した物流における大気環境改善の評価」（研究代表者）
・基盤研究 C「空間公共経済学の研究：公共財、集積・分散および技術進歩」（研究分担者）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 茨城高専連携委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
論文委員会委員（大学院）
教学マネジメント委員会（授業評価・FD）（大学院・学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：都市住宅学会理事会常務理事(業務執行理事)、都市住宅研究センター次長、都市住宅学会総務企画委員会委員長、都市住宅学編集委員会委員、都市住宅学学会賞委員会委員、日本不動産学会総務委員会委員

氏名	佐野 幸恵	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類：ネットワーク科学、数学リテラシー1、プログラミング入門A、プログラミング入門B、学問への誘い(社会工学類担当)
- 大学院：社会シミュレーション

◆ 指導学生数：13人

- 社会工学類 4人
- 社会工学学位P (前期) 1人・サービス工学学位P (前期) 6人
- 社会工学学位P (後期) 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科学研究費 基盤研究(B) 「包摂的コミュニティ創生のためのデータ駆動型数理基盤の研究」(代表)
- 科学研究費 基盤研究(B) 「学際的エビデンスに基づく超高齢社会のモビリティ支援とアクティブ・エイジングの推進」(分担)
- 科学研究費 基盤研究(B) 「アカウンティング・インフォマティクス (会計情報科学) の基盤研究」(分担)
- 科学研究費 基盤研究(B) 「勤労世代の風疹ワクチン接種の普及を目的とした実装研究」(分担)
- 株式会社野村総合研究所 「Web 空間上の集合的感情の可視化に関する研究」(共同研究/代表)
- サイバーエージェント株式会社 「メディアサービスにおけるユーザの行動ログに関する研究」(共同研究/代表)
- 本田技研工業株式会社 「コネクテッドカー開発に関するデータ活用」(共同研究/分担)

◆ 著書・論文等：

1. N. Otomo, K. Sasahara, M. Mizuno, and Y. Sano,
“Quantifying collective attention and fan engagement: a case study of the Japanese professional baseball league,” *Journal of Computational Social Science*, vol.8, article number 45 (2025).
2. K. Tamura, Y. Sano, and J. Shiozaki,
“Quantifying collective emotions: Japan’s societal trends through enhanced sentiment index using POMS2 and SNS,” *Proc. 2024 IEEE International Conference on Big Data*, Washington, DC, USA, 2024, pp. 3082-3087,
3. M. Ichiawa, R. Tanaka, A. Nakanishi, and Y. Sano
“News coverage of older drivers’ fatal car crashes: Is it over-represented?,” *Journal of Epidemiology*, vol.35(5), pp. 245-249 (2024).

◆ 学会発表等：

1. “Data-driven analysis of collective memory and attention on online social media,” International School and Conference on Network Science (NetSciX2025), Indore, India, 2025年1月15-17日。（招待講演）
2. “Quantifying collective attention on online social media,” Mini-Workshop on Data-driven Social Physics, Meiji Gakuin University, Japan 2024年11月12日。（招待講演）
3. “Women in Japanese STEM field,” The 12th International Conference on Hard and Electromagnetic Probes of High-Energy Nuclear Collisions (Hard Probes 2024, HP2024), Nagasaki, Japan, 2024年9月22-27日。（基調講演）
4. “社会物理学的アプローチによる集合的記憶の分析,”
諸科学集会 24年度“春”, 統計数理研究所, 2025年3月27日。（招待講演）
5. “集団の多様性と集中を用いた熱狂の定量化,” 電子情報通信学会 総合大会, 東京都市大学, 2025年3月24日。（招待講演）
6. “Wikipedia 閲覧数を用いた集合的記憶の数理モデル,” 京都大学学術情報メディアセンターセミナー「Web 情報学の今」, 2024年9月9日（招待講演）
他5件

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学：研究デザイン室 室員
- ◆ 学位プログラム組織の業務への貢献（委員会等）：

- 社会工学類 3年クラス担任、運営委員会/コンピュータ委員会 委員
- 学位P 運営委員会/コンピュータ委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会：
 - 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 オブザーバ
- ◆ 計算社会科学会：
 - 理事
- ◆ つくば市関連：
 - つくばSTEAM コンパス 協力研究者
 - つくば市空き家対策協議会 委員
 - つくば市建築審査会 委員
- ◆ その他：
 - 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員
 - 茨城県南生涯学習センター 運営協議会 委員
 - 茨城県 大学等地域連携委員会 委員
 - 茨城県土浦市 まち・ひと・しごと創生有識者会議 副委員長

氏名	高野 祐一	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化 金融工学 機械学習		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 会計と経営／ファイナンス／経営と機械学習／問題発見と解決
 - 大学院 資産評価論／技術経営
- ◆ 指導学生数：合計 19 人
 - 社会工学類 5 人
 - 博士前期課程 7 人 (社会工学学位 P) 3 人 (サービス工学学位 P)
 - 博士後期課程 4 人 (社会工学学位 P)

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費 基盤研究 (C) 「混合整数最適化による次元縮約法の最良スパース推定」 (代表)
 2. 科学研究費 基盤研究 (B) 「リーマン多様体上の制約付き最適化問題に対する汎用アルゴリズムの理論と実装」 (分担)
 3. 科学研究費 基盤研究 (C) 「プロジェクトを円滑に遂行するための管理技術に関する研究」 (分担)
 4. 科学研究費 基盤研究 (B) 「2 種類のロバスト性を統合したデータ駆動意思決定モデルの構築」 (分担)
 5. 共同研究 (日産自動車株式会社) 「タイヤの性能指標の予測モデルに関する研究」 (代表)
 6. 共同研究 (株式会社メルカリ) 「マーケティング施策の効率化に関する研究」 (代表)
 7. 共同研究 (株式会社リクルート) 「インセンティブ施策およびレコメンド施策における効果的なアルゴリズム開発」 (代表)
 8. 共同研究 (株式会社デンソー) 「モビリティの運用最適化に関する共同研究」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：
 1. 菊池明飛, 伊熊大貴, 板山咲穂, 上原祐輝, 武井柊悟, 竹内崇貴, 深谷悠人, 柳智也, 椎名萌, 守屋恵瑠萌, 池田春之介, 高野祐一: 最適モデル多分木による価格需要曲線

- の推定. オペレーションズ・リサーチ：経営の科学, 70 (2025), 61--68.
2. D. Ikuma, S. Ikeda, N. Sukegawa, and Y. Takano: Container pre-marshalling problem minimizing CV@R under uncertainty of ship arrival times. *Journal of Japan Industrial Management Association*, 75 (2025), 172--182.
 3. T. Shiratori and Y. Takano: DC algorithm for estimation of sparse Gaussian graphical models. *PLOS ONE*, 19 (2024), e0315740.
 4. Y. Uehara, N. Nishimura, Y. Li, J. Yang, D. Jobson, K. Ohashi, T. Matsumoto, N. Sukegawa, and Y. Takano: Robust portfolio optimization model for electronic coupon allocation. *INFOR: Information Systems and Operational Research*, 62 (2024), 646--660.
 5. R. Tamura, Y. Takano, and R. Miyashiro: Mixed-integer linear optimization formulations for feature subset selection in kernel SVM classification. *IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications, and Computer Sciences*, E107-A (2024), 1151--1162.
 6. 椎名萌, 高野祐一, 宇佐美朋香, 山西康孝, 藤巻米隆: 混合整数最適化による相続工程の長期化リスク採点システム. オペレーションズ・リサーチ：経営の科学, 69 (2024), 219--224.
 7. H. Saishu, K. Kudo, and Y. Takano: Cutting-plane algorithm for estimation of sparse Cox proportional hazards models. *TOP: Transactions in Operations Research*, 32 (2024), 57--82.
 8. 川上雄大, 奈良岡勇, 松本拓見, 安元優太, 朝倉希美, 椎名萌, 守屋恵瑠萌, 鮎川矩義, 高野祐一: EC サイトにおける利用者属性データの欠損値補完. オペレーションズ・リサーチ：経営の科学, 69 (2024), 82--88.
 9. Y. Uehara, S. Ikeda, N. Nishimura, K. Ohashi, Y. Li, J. Yang, D. Jobson, X. Zha, T. Matsumoto, N. Sukegawa, and Y. Takano: Fast solution to the fair ranking problem using the Sinkhorn algorithm. *Proceedings of the 21st Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence (PRICAI, 2024) Part V*, 207--215.
 10. T. Yanagi, S. Ikeda, and Y. Takano: Robust portfolio optimization for recommender systems considering uncertainty of estimated statistics. *Proceedings of the 21st Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence (PRICAI, 2024) Part IV*, 429--440.
 11. K. Ohashi, S. Sekine, D. Jobson, J. Yang, N. Nishimura, N. Sukegawa, and Y. Takano: Strategic coupon allocation for increasing providers' sales experiences in two-sided marketplaces. *KDD 2024 Workshop on Two-sided Marketplace Optimization: Search, Pricing, Matching & Growth*, arXiv preprint,

arXiv:2407.14895 (2024).

12. 川上雄大, 高野祐一: データコラボレーション解析における統合関数の最適化. オペレーションズ・リサーチ: 経営の科学, 69 (2024), 297--302.

◆ 学会発表等:

◆ その他:

1. 高野祐一, 池田春之介, 伊熊大貴, 板山咲穂, 上原祐輝, 菊池明飛, 武井柊悟, 竹内崇貴, 深谷悠人, 柳智也, 鈴木颯斗, 矢中祥吾, 和田菜々里: 令和6年度データ解析コンペティション 審査員特別賞. 経営科学系研究部会連合協議会, 2025年3月14日
2. 高野祐一, 池田春之介, 伊熊大貴, 板山咲穂, 上原祐輝, 菊池明飛, 武井柊悟, 竹内崇貴, 深谷悠人, 柳智也, 鈴木颯斗, 矢中祥吾, 和田菜々里: 令和6年度データ解析コンペティション 殊勲賞. 日本オペレーションズ・リサーチ学会「ビッグデータを用いたマーケティング分析」研究部会, 2025年2月26日
3. 椎名萌, 高野祐一, 宇佐美朋香, 山西康孝, 藤巻米隆: 第44回事例研究賞. 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 2024年9月10日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

1. 人工知能科学センター 構成員
2. 総合学域群 アカデミックアドバイザー

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

1. 社会工学類 2年生2クラス担任
2. 社会工学類 入試実施委員
3. 社会工学/サービス工学学位プログラム 広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

1. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関誌編集委員

氏名	原田 信行	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 統計学／金融論
大学院 企業評価論
- ◆ 指導学生数 :
社会工学類 1人
社会工学学位プログラム 1人

2. 研究

3. 学内運営

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会工学類 カリキュラム委員会委員
社会工学類 卒業生連絡委員会委員

氏名	松原 康介	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム（兼担）		
担当学類	国際総合学類 社会工学類（兼担）		
研究分野	建築史、都市計画史、国際協力		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/
大学院：都市形成史/
- ◆ 指導学生数：
国際総合学類 9/社会工学類 0/社会工学学位 P（前期）8/社会工学学位 P（後期）1

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 基盤研究（B）「もう一つのモダニズム」による地域性の再構築 フェルナン・ピヨンの生涯業績(24K01047)（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - 松原康介「ガルダイヤとジェルバ島のイバード建築 -ル・コルビュジェ「ロンシャン礼拝堂」に舞い降りたインスピレーション-」高橋英海, 鈴木啓之, 宇田川彩（編）『中東を読み解く 東大駒場連続セミナー 思想・文化・信仰の遺産』東京大学出版会 2024年9月
 - 渡邊智也, 松原康介「カミロ・ジッテの思想的変遷に関する研究 -「芸術性」から「実用性」への展開を中心に-」都市計画論文集 59(3) 892-899 2024年10月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究群広報委員会委員
地中海・北アフリカ研究センター 兼任准教授
西アジア文明研究センター 兼任准教授
西アジア文明研究センター 運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻広報委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
日本建築学会 建築計画委員会・国際化支援 WG
JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering), Editorial Member
(Urban Planning)
日本都市計画学会 国際委員
日仏東洋学会 広報担当幹事

氏名	山本 幸子	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担		
学位プログラム (博士前期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	建築計画, 地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 設計演習 I / 住環境計画概論 / 都市計画入門

大学院 住環境計画論 / 社会工学ワークショップ I・II / 社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II / 社会工学ファシリテーター育成プレプログラム I・II・III・IV / Environmental Analysis and Planning / Introduction to Environmental Sciences / Exercises in Environmental Sciences

◆ 指導学生数：

社会工学類 4名

社会工学学位プログラム博士前期課程 6名 博士後期課程 1名

環境科学学位プログラム博士前期課程 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) 科学研究費基盤研究 C, 代表者：山本幸子, 農村移住者の宿泊滞在施設運営と地域交流活動による新たな都市農村交流の展開可能性
- 2) 科学研究費基盤研究 C, 代表者：大庭知子, 地域連携による新たな戸建て活用型住宅セーフティネットシステムの提案
- 3) 石岡市受託研究, 代表者：藤川昌樹, 研究題目：石岡市看板建築及び里山景観等調査研究
- 4) R コーポレーション株式会社共同研究, 代表者：山本幸子, 研究題目：かすみがうら市の歴史的建築物活用にかかわる調査研究
- 5) 関彰商事株式会社共同研究, 代表者：山本幸子, 研究題目：茨城版SDGsを推進する産学研究

◆ 著書・論文等：

- 1) 陳 星, 山本幸子, 中園真人：北関東地域における高齢者通所介護サービスの需給構造と

将来推計(その2)：市場均衡条件を組込んだ需要供給量推計(2020～2045),日本建築学会
計画系論文集, 第824号, pp.1942-1951, 2024.10

◆ 学会発表等：

- 1) 牛見佳乃子、大庭知子、山本幸子：農山村地域に立地するゲストハウスの地域活性化に向けた取り組み 九州・中国・四国地方の基礎調査, 日本建築学会九州支部研究報告,第64号, pp.53-56 2025.3
- 2) 吉岡誠生、山本幸子：自治体担当課による地域コミュニティ活動のフォローアップと施策立案に関する研究 都市的地域と農村地域が合併した自治体を対象として, 2024年度農村計画学会全国大会(秋季大会)学術研究発表会梗概集, pp.27-28, 2024.11.30
- 3) 石井裕樹、山本幸子：農地における規模別の太陽光パネル設置要因の分析, 2024年度農村計画学会全国大会(秋季大会)学術研究発表会梗概集, pp.41-42, 2024.11.30
- 4) 小林正英、山本幸子：地域おこし協力隊の任期終了後の定住率と進路及び地域特性との関連分析 全国の自治体データを対象として, 2024年度農村計画学会全国大会(秋季大会)学術研究発表会梗概集, pp.55-56, 2024.11.30
- 5) 大庭知子、山本幸子：農村地域の宿泊滞在施設における地域交流活動の実態調査-九州・中国・四国地方のシェアハウスを対象として-, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.25-26, 2024.8
- 6) 関梢子、山本幸子：移住者主体による交流の場の形成過程と効果-茨城県石岡市八郷地域を事例として-, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.121-122, 2024.8
- 7) 小野寺七海、山本幸子：木造板倉仮設住宅の再利用事例における平面構成の変化と住まい方, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.819-820, 2024.8

◆ その他：

- 1) 「農村空家の多面的活用の可能性」, 飯豊町農村未来塾講演及びパネルディスカッション(飯豊町), 2025年2月14日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：

- 1) 社会工学類カリキュラム委員
- 2) 社会工学専攻施設委員
- 3) 社会工学類建築士受験資格運営委員会委員
- 4) 筑波大学社会工学類運営委員

- 5) 社会工学専攻運営委員運営委員
- 6) 筑波大学社会工学類学生担当教員
- 7) 社会工学類3年クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) 国土交通省既存住宅市場の整備・活性化懇談会委員
- 2) 八千代町旧中山家住宅活用検討委員会委員長
- 3) 石岡市複合文化施設整備審議会委員
- 4) 土浦市住生活基本計画策定委員会会長
- 5) いばらき古民家活用協議会会長
- 6) 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- 7) 石岡市協働のまちづくり推進委員会
- 8) 石岡市景観調査委員会委員
- 9) 土浦市空家等対策協議会委員長
- 10) 石岡市空家等対策協議会委員
- 11) 石岡市都市計画審議会委員
- 12) つくば市ホテル等建築審議会委員
- 13) 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議支援事業部会委員
- 14) 日本建築学会農村計画本委員会委員
- 15) 日本建築学会住宅系研究報告会運営代表幹事
- 16) 日本建築学会文化的生態的景観小委員会幹事
- 17) 日本建築学会農村計画本委員会委員
- 18) NPO つくばハウジング研究会副理事長
- 19) NPO つくば建築研究会理事

氏名	和田 健太郎	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通工学, 土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通計画, 微積分 1, 都市計画演習, 都市数理, 線形代数 3
大学院 モビリティイノベーションの社会応用

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名
社会工学学位プログラム 6名 (うち博士後期課程 1名)
サービス工学学位プログラム 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会 科学研究費助成事業

- ・ 高速道路単路部の交通流理論の検証と交通制御システムの戦略的デザイン, 基盤研究 (B) (研究代表)
- ・ 高速車両連結技術を前提とした都市鉄道の近未来型運行スキーム, 挑戦的研究 (萌芽) (研究代表)
- ・ 限定合理的個人を仮定した大規模社会システムの動的制度設計, 基盤研究 (B) (分担, 代表者：澤亮治)

◆ 著書・論文等：

- ・ 梅村悠生, 和田健太郎: 自動運転車両の速度制御を考慮した系統信号制御に関する考察, 交通工学論文集, Vol.10, No.1, pp.A 10–A 17, 2024.
- ・ Koki Satsukawa, Kentaro Wada and Takamasa Iryo: Stability analysis of a departure time choice problem with atomic vehicle models, *Transportation Research Part B: Methodological*, Vol.189, pp.103039, 2024.

◆ 学会発表等：

国際学会

- Toru Seo, Ryota Maruyama, **Kentaro Wada** and Yikai Zhou: Dynamic system optimal pricing for shared autonomous vehicles in congestible networks: Theoretical properties, *The Conference in Emerging Technologies in Transportation Systems (TRC-30)*, No.68, 2024.

国内学会

- 平山裕紀人, **和田健太郎**：観光地における駐車場渋滞の分析と対策の考察：筑波山におけるケーススタディ, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 07-16 (CD-ROM), 2024.
- 飯村直紀, **和田健太郎**：多起点多終点の需要を考慮した多種別連結運行スキームの分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 27-07 (CD-ROM), 2024.
- 梅村悠生, **和田健太郎**：路線分割に基づく系統制御評価手法の考察, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 31-05 (CD-ROM), 2024.
- 田中大輔, **和田健太郎**：シェアサイクル事業の利用実態把握と再配置の効果分析—茨城県つくば市「つくチャリ」を対象として—, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 41-03 (CD-ROM), 2024.
- 山田圭祐, 甲斐慎一郎, **和田健太郎**：解釈可能な機械学習モデルによる追従モデルパラメータと Capacity Drop 現象の関係分析, 03, Vol.70, 48-03 (CD-ROM), 2024.
- 桑原慶太, **和田健太郎**：東京オリンピック時の首都高速道路データを用いた一般化バスタブモデルの検証, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 48-04 (CD-ROM), 2024.
- 中林悠, 甲斐慎一郎, **和田健太郎**, 外山敬祐, 加藤寛道, 石田貴志：連続体交通流理論に基づく自発光ペースメーカーライトによる渋滞対策の持続効果分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 48-06 (CD-ROM), 2024.
- 木村真也, 甲斐慎一郎, **和田健太郎**：連続体交通流理論を用いた渋滞情報板の設置検討と効果検証, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 48-07 (CD-ROM), 2024.
- 甲斐慎一郎, **和田健太郎**, 佐野昌嗣, 平井章一：小仏トンネルにおける速度回復喚起メッセージ変更の影響分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.70, 48-08 (CD-ROM), 2024.
- 眞貝憲史, **和田健太郎**, 中井万理子, 石原雅晃：車両軌跡データと交通流理論を融合した合流部における交通容量の分析, 第 70 回土木計画学研究発表会, 2024. (発表のみ, 講演集掲載なし)
- 岸川知樹, 飯村直紀, **和田健太郎**：多種別連結運行スキームにおける鉄道システムの安定性解析, 第 31 回鉄道技術連合シンポジウム (J-RAIL2024) , SS4-1-3, 2024.

◆ その他：

講演等

- **和田健太郎**：一般化バスタブモデルの検証, 第 14 回高速道路の交通データ利用に関する

る勉強会, 金沢商工会議所会館, 2024 年 9 月 6 日.

- ・ **和田健太郎**, 甲斐慎一郎: 理論を使うと見えてきた! ドライバーの知覚を刺激する渋滞対策の効果とは?, 第 6 回 JSTE シンポジウム企画セッション, フェニックス・プラザ, 2024 年 11 月 28 日.
- ・ **和田健太郎**: 第 20 回米谷・佐佐木賞授賞式パネルディスカッション, ホテル日航プリンセス京都, 2024 年 12 月 6 日. (with 倉内文孝, 力石真, 原祐輔)

受賞 (指導学生も含む)

- ・ 梅村悠生, 優秀同窓会賞, 筑波大学社工都市計画同窓会, 2025 年 2 月.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
 - ・ なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
 - ・ 社会工学類 入試実施委員
 - ・ 社会工学/サービス工学学位プログラム カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動:
 - ・ Editorial Board, International Journal of Intelligent Transportation Systems Research
 - ・ 委員, 鉄道事業の事業評価に係る勉強会, 運輸総合研究所
 - ・ 副会長, 筑波山周辺渋滞対策協議会, 茨城県
 - ・ 委員, 新規出版企画委員会, 交通工学研究会
 - ・ 委員, 首都高の将来料金等研究会, 首都高速道路株式会社
 - ・ 委員, 自主研究「平面交差の計画・設計・制御の研究」, 交通工学研究会
 - ・ 代表, 自主研究「高速道路単路部の渋滞現象記述理論の実務への応用」, 交通工学研究会
 - ・ 委員, デジタル化タスクフォース, 交通工学研究会
 - ・ 会長, 石岡小美玉スマートインターチェンジ地区協議会, 石岡市
 - ・ 幹事, 交通技術委員会, 阪神高速道路株式会社
 - ・ 委員, 中央道渋滞対策検討会, 中日本高速道路株式会社八王子支社
 - ・ 委員, 信号機ガイドブック出版小委員会, 交通工学研究会
 - ・ 幹事, 大会運営小委員会, 土木計画学研究委員会
 - ・ 委員, 自動運転インフラ検討会, 国土交通省
 - ・ 幹事長, 第 15 回高速道路の交通データ利用に関する勉強会

(以上)

氏名	阿武秀和	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学 専攻		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学, 経済学の数理(以上、学類)、ミクロ経済学, ゲーム理論(大学院)
- ◆ 指導学生数：学類2名、大学院修士2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究「公平な複数財配分の研究」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
Note on Gale's conjecture in one-sided matching problems, *International Journal of Game Theory*, Volume 54, article number 14, 2025.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：研究室配属マッチング委員会、学群入試実施委員会

4. 学外の社会貢献

なし

氏名	木下 陽平	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	測地学、地球物理学、リモートセンシング		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類： 線形代数 2, 線形代数 3, 都市環境評価論, 都市計画マスタープラン演習, 都市計画インターンシップ, 都市数理, 学問探究チュートリアル
- ◆ 大学院： リスク・レジリエンス工学学位プログラム演習, レジリエント都市計画演習, リスク工学基礎, リスク・レジリエンス工学学位プログラムグループ PBL 演習, 都市リスクマネジメント論, 災害リスク・レジリエンス論
- ◆ 指導学生数：
 - リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士後期課程 2名
 - リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士前期課程 4名
 - 理工学群社会工学類 1名
 - 地球規模課題解決学位プログラム 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究(C)「異常検知手法と大気ノイズ補正を併用した InSAR 時系列による未知の SSE 検出手法の確立」(代表)
 - 科学研究費 特別研究促進費「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - T. Yamada, Y. Ohta, T. Nishimura, K. Yoshida, Y. Hiramatsu, Y. Kinoshita, Coseismic slip distribution of the 2024 Noto Peninsula earthquake deduced from dense global navigation satellite system network and interferometric synthetic aperture radar data: effect of assumed dip angle, Earth, Planets and Space, 77(19), 2025.

◆ 学会発表等：

- 山田太介, 太田雄策, 西村卓也, 平松良浩, 木下陽平, 吉田圭佑, 稠密測地観測データにもとづく 2024 年能登半島地震におけるすべり分布 とその断層幾何の関係, JpGU2024, 幕張メッセ, 千葉, 28/05/2024
- 木下陽平, 古屋正人, 青木陽介, 小澤拓, 田中明子, 福島洋, 安藤忍, 高田陽一郎, 奥山哲, PIXEL のこれまでの取り組みと今後について, JpGU2024, 幕張メッセ, 千葉, 30/05/2024
- 櫻井隆之介, 木下陽平, ALOS-2 による InSAR スタッキング解析を用いた筑波山周辺の地すべり検出への試み, JpGU2024, 幕張メッセ, 千葉, 30/05/2024
- 下妻康平, 木下陽平, GNSS・InSAR 時系列解析に基づく中央構造線断層帯（四国東部）のジオメトリ推定, JpGU2024, 幕張メッセ, 千葉, 31/05/2024
- Kohei Shimotsuma, Yohei Kinoshita, Suguru Yabe, Tadafumi Ochi, Geometry of the Median Tectonic Line (MTL) in eastern Shikoku based on inter-seismic displacement fields detected by InSAR and GNSS, Slow to Fast 地震学 A03 班研究集会「世界の沈み込み帯における Slow と Fast の破壊現象の実像に関する研究集会」, 高山市中尾公民館, 岐阜, 21/08/2024
- Kohei Shimotsuma, Yohei Kinoshita, Suguru Yabe, Tadafumi, Ochi, Geometry of the Median Tectonic Line (MTL) in eastern Shikoku based on inter-seismic displacement fields detected by InSAR and GNSS, International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquakes 2024, 別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）, 大分, 18/09/2024
- 山田 太介, 太田 雄策, 西村 卓也, 平松 良浩, 木下 陽平, 吉田 圭佑, 稠密 GNSS 観測網に基づく 2024 年能登半島地震の地震時すべり分布および断層幾何の網羅的評価, 日本地震学会 2024 年度秋季大会, 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター, 新潟, 22/10/2024
- 山田 太介, 太田 雄策, 西村 卓也, 平松 良浩, 木下 陽平, 吉田 圭佑, 稠密測地観測網にもとづく 2024 年能登半島地震の地震時すべり分布と断層幾何の定量評価, 日本測地学会第 142 回講演会, 大和ミュージアム, 広島, 30/10/2024
- 下妻康平, 木下陽平, 矢部優, 落唯史, 高空間分解能な地震間地殻変動観測に基づく中央構造線（四国東部）の断層ジオメトリ推定, 日本測地学会第 142 回講演会, 大和ミュージアム, 広島, 31/10/2024
- 古屋正人, 青木陽介, 小澤拓, 田中明子, 福島洋, 安藤忍, 高田陽一郎, 奥山哲, 木下陽平, PIXEL (PALSAR Interferometry Consortium to Study our Evolving Land surface)による国内の SAR 利用研究の拡大, 日本測地学会第 142 回講演会, 大和ミュージアム, 広島, 31/10/2024

- 木下陽平, 稠密 GNSS 観測点を用いた InSAR 中性大気遅延補正の試験的結果, 日本測地学会第 142 回講演会, ビューポートくれ, 広島, 01/11/2024
- Yohei Kinoshita, Kohei Shimotsuma, Small displacement detection by atmosphere-corrected time series InSAR analysis, JAXA PI workshop2024, Vision Center Tokyo Kyobashi, 21/11/2024
- Taisuke Yamada, Yusaku Ohta, Takuya Nishimura, Yoshihiro Hiramatsu, Yohei Kinoshita, Keisuke Yoshida, Coseismic slip distribution and fault geometry evaluation of the 2024 Noto Peninsula earthquake deduced from the very dense GNSS networks, AGU 2024 annual meeting, Walter E. Washington Convention Center, Washington DC, USA, 12/12/2024
- Kohei Shimotsuma, Yohei Kinoshita, Suguru Yabe, Tadafumi Ochi, Coupling distribution and dip angle estimation of the Median Tectonic Line based on GNSS & InSAR, SF 地震学 A03 国際比較班研究集会, (場所不明), 08/02/2025
- 下妻康平, 木下陽平, 矢部優, 落唯史, GNSS・InSAR 観測に基づく南海トラフ・中央構造線における定常的カップリング推定の試み, 東京大学地震研究所 共同利用(研究集会:課題番号 2024-W-05) 課題「SAR 新時代へ向けた地表変動研究の現在」2024 年度研究集会, 東京大学地震研究所, 東京, 19/02/2025
- Elise Marvela, Yohei Kinoshita, 17-years Land subsidence history obtained from ALOS, ALOS-2 and Sentinel-1 InSAR time series analysis at Jakarta, Indonesia, 東京大学地震研究所 共同利用(研究集会:課題番号 2024-W-05) 課題「SAR 新時代へ向けた地表変動研究の現在」2024 年度研究集会, 東京大学地震研究所, 東京, 20/02/2025
- 櫻井隆之介, 木下陽平, スロースリップイベント検出を目的とした InSAR 時系列データへの異常検知手法開発, 東京大学地震研究所 共同利用(研究集会:課題番号 2024-W-05) 課題「SAR 新時代へ向けた地表変動研究の現在」2024 年度研究集会, 東京大学地震研究所, 東京, 20/02/2025
- 岩井大典, 木下陽平, 令和 6 年能登半島地震後地殻変動の InSAR 解析による検出の試み, 科学研究費助成事業(特別研究促進費)「2023 年 5 月 5 日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」研究集会, しいのき迎賓館, 石川, 27/03/2025

◆ その他 :

JAXA 第 4 回地球観測研究公募 採択 (PI 2 件、CI 1 件)

3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献 :

全学チュートリアル学修教育推進委員会 委員

◆ 学位プログラムの業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 広報委員会委員，卒業生連絡委員

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 学務委員会委員(RERM 担当)

4. 学外の社会貢献

各種活動：

学術誌査読：日本リモートセンシング学会誌 1件

IEEE IGARSS2025 査読 8件

APSAR2025 abstract 査読 6件

JAXA EO-RA4 プロポーザル査読 6件

日本測地学会 評議員

日本測地学会 EPS 運営委員

日本測地学会 将来検討ワーキンググループ メンバー

日本測地学会 坪井賞団体賞 受賞 (PIXEL グループ)

日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAG 小委員会 委員

IGARSS 2025 Scientific committee

InSAR 地殻変動研究コミュニティ「PIXEL」 代表

日本地球惑星科学連合 「SAR」セッション コンビナー

日本リモートセンシング学会 JpGU 小委員会 委員

JAXA ALOS-4 Calibration/Validation Science Team (CVST) メンバー

JAXA 地球観測に関する科学アドバイザー委員会分科会 委員

JAXA EO-RA4 評価委員会委員

2025年度第2回PIXEL講習会 講師

氏名	志田 洋平	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会・経済物理学、データサイエンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：プログラミング入門 A, プログラミング入門 B, データ解析, ファイナンス:理論と実践(野村証券講座)
 - 大学院：社会工学のための数学, 技術経営
- ◆ 指導学生数：2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 筑波大学研究基盤支援プログラム(S タイプ)「スマホ GPS データに基づく大都市圏人流モデルの災害事故評価への応用」(代表)
 - 共同研究「効率的な人的制御を実現する歩行者の空間理解に応じた音響的な能動的介入」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - 日本統計学会公式認定 統計検定データサイエンス発展対応 データサイエンス発展演習, 2024年9月(複数ページ担当)
- ◆ 学会発表等：
 - ○Yohei Shida, Hideki Takayasu, Misako Takayasu, Assessing the Universality of Human Flow Models Through Drainage Basin Analysis and Daily Flow Fluctuations: A Study on GPS-Based Urban Dynamics, Complex Networks 2024, Istanbul, 口頭発表
 - ○志田洋平, 電気回路から類推した都市内人流のマッピング, 及び最近の位置情報データの潮流について, 応用地域学会, 福岡, 招待講演
 - ○Yohei Shida, A Vector Field Approach to Human Flow in Urban Areas: Insights from Electric Circuit Models, Roles of Heterogeneity in Economical and Social Systems, Okinawa, 招待講演
 - 他4件
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 4年クラス担任
 - 社会工学類 施設委員会 構成員
 - 社会工学類 留学生対応

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 第14回茨城県高校生科学研究発表会 審査員(2023年2月)
 - 成城大学非常勤講師
 - 統計検定 CBT 委員会 第十二分科会委員・第十三分科会委員

氏 名	Tran Lam Anh Duong	職 名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：国際金融論/マクロ経済学/計量分析システム演習/ファーストイヤーセミナー
 - 大学院前期課程：経済・政策分析/ファイナンス:理論と実践

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 公益財団法人ヒロセ国際奨学財団（研究助成）「グローバル・バリュー・チェーンの形成と経済発展：理論と実証」（代表）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 日越大学 修士課程公共政策プログラム（ベトナム）：授業 (Macroeconomics for Public Policy)、研究指導、運営
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：広報委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 国際奨学財団における委員会活動：公益財団法人ジャパンマテリアル国際奨学財団 選考委員（2019年4月－現在）
- ◆ 非常勤講師の活動：放送大学東京多摩学習センター：基礎マクロ経済学